

策定年度	令和 3 年度
目標年度	令和 7 年度

仙南圏域みやぎ園芸特産振興戦略プラン

令和 5 年 4 月一部改訂
宮城県大河原地方振興事務所

はじめに

I 園芸特産の現状と課題 -----	1
(野菜)	
(花き)	
(果樹)	
(特用林産物)	
II 園芸特産振興の方向性 -----	2
(野菜)	
(花き)	
(果樹)	
(特用林産物)	
III 重点振興品目(34品目) -----	3
1 県戦略品目(13品目)	
(野菜6品目:いちご、きゅうり、トマト、ねぎ類、たまねぎ、えだまめ)	
(花き3品目:輪ぎく、スプレーぎく、鉢ものの類・花壇用苗ものの類)	
(果樹3品目:りんご、日本なし、ぶどう)	
(特用林産物1品目:しいたけ)	
2 地域戦略品目(21品目)	
野菜12品目:そらまめ、スイートコーン、さやいんげん、つるむらさき、ブロッコリー、 だいこん、にんじん、さといも、きくいも、えごま、じねんじょ、さつまいも	
(花き2品目:小ぎく、トルコギキョウ)	
(果樹6品目:小果樹類、もも、うめ、かき、いちじく、西洋なし)	
(特用林産物1品目:たけのこ)	
IV 品目別アクションプラン -----	9
1 野菜(18目)	
(1) いちご -----	9
(2) きゅうり -----	11
(3) トマト -----	13
(4) ねぎ類 -----	15
(5) たまねぎ -----	17
(6) えだまめ -----	19
(7) そらまめ -----	21
(8) スイートコーン -----	23

(9) さやいんげん	-----	25
(10) つるむらさき	-----	27
(11) ブロッコリー	-----	29
(12) だいこん	-----	31
(13) にんじん	-----	33
(14) さといも	-----	35
(15) きくいも	-----	37
(16) えごま	-----	39
(17) じねんじょ	-----	41
(18) さつまいも	-----	43

2 花き(5品目)

(1) 輪ぎく	-----	45
(2) スプレーぎく	-----	47
(3) 鉢ものの類	-----	49
(4) 花壇用苗ものの類	-----	51
(5) 小ぎく	-----	53
(6) トルコギキョウ	-----	55

3 果樹(9品目)

(1) りんご	-----	57
(2) 日本なし	-----	59
(3) ぶどう	-----	61
(4) 小果樹類	-----	63
(5) もも	-----	65
(6) うめ	-----	67
(7) かき	-----	69
(8) いちじく	-----	71
(9) 西洋なし	-----	73

4 特用林産(2品目)

(1) しいたけ	-----	75
(2) たけのこ	-----	77

＝ は じ め に ＝

1 「仙南圏域みやぎ園芸特産振興戦略プラン」の位置づけ

「仙南圏域みやぎ園芸特産振興戦略プラン」は、本県の園芸特産振興計画である「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」の仙南圏域版計画であり、今後の園芸特産の振興方向と重点振興品目 **34** 品目（県戦略品目： **13** 品目及び地域戦略品目： **21** 品目）の推進方策を取りまとめたものである。

なお、「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」は、「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画（計画期間令和3年度～令和12年度）」の園芸特産部門の実行計画として位置づけられている。

2 計画期間 令和3年度から令和7年度までの5ヵ年間

3 仙南圏域の園芸特産の振興方向

園芸産地再興に向け、重点振興品目を中心にして、機械導入による省力化・低コスト化が可能な土地利用型園芸の推進や、地域の特性を活かしてブランド化を図る地域特産園芸を促進し、仙南地域の特色ある園芸産地を目指す。

4 仙南圏域みやぎ園芸特産振興戦略プラン重点振興品目

	野菜		花き	果樹	特用林産
県戦略品目	いちご きゅうり トマト ねぎ類	たまねぎ えだまめ	輪ぎく スプレーぎく 鉢もの類・ 花壇用苗もの類	りんご 日本なし ぶどう	しいたけ
小計	6 品目		3 品目	3 品目	1 品目
地域戦略品目	そらまめ スイートコーン さやいんげん つるむらさき ブロッコリー だいこん	にんじん さといも きくいも えごま じねんじょ さつまいも	小ぎく トルコギキョウ	小果樹類 もも うめ かき いちじく 西洋なし	たけのこ
小計	12 品目		2 品目	6 品目	1 品目
合計	18 品目		5 品目	9 品目	2 品目

（太字は新規品目）

県戦略品目：県全体の基幹品目として産地化されており、今後、更に産地の拡充を図る品目で、部門ごとに定める選定基準を満たすものを園芸特産振興会議で選定するもの。

地域戦略品目：各圏域において、水田農業ビジョン等の振興品目との整合性を図りながら、地域の特色を生かし、地域農業の活性化のために重点的に推進する品目で、園芸特産振興会議で選定する。

5 生産の現状値及び目標等について

- ① 本プランの現状値は、野菜「JA共販」等、花き「花き産業振興総合調査」、果樹「特産果樹生産動態調査」、特用林産「特用林産物需給動態調査」による。
- ② 仙南圏域の出荷・販売形態の特徴として、直売所での販売増加傾向にあることから、参考データとして毎年度の販売額等を把握することとした。

仙南圏域の園芸特産振興方向

I 園芸特産の現状と課題

(共通)

仙南地域は、市町毎に立地条件を活かした特徴的な品目が栽培され、多彩な園芸品目の生産が行われています。令和元年東日本台風により、特に阿武隈川流域地域において甚大な被害が発生し、野菜・花きの生産・販売数量が減少しましたが、補助事業等の活用により栽培面積は概ね復旧しています。

今後、担い手の高齢化が一層進展する中で、大きな問題となっている鳥獣被害及び農産物価格の低迷や資材の高騰による農業所得の減少等の影響から、園芸品目の産出額の停滞が懸念されており、その再編が緊急の課題です。

(野菜)

主要野菜であるいちご、きゅうりに加え、仙南地域の特色ある品目が生産されており、つるむらさき、そらまめ、ブロッコリー、さといも等の流通量は県内上位です。販売面では、市場出荷・契約販売に加え、直売活動への取組が進んでいます。

いちごやねぎ類については新技術導入や機械化が進み、生産が拡大していますが、きゅうり、さといもなど古くからの特産品目については生産者の高齢化及び担い手不足により、作付面積、出荷量は減少傾向にあります。たまねぎ、ねぎ類、**さつまいも**については補助事業等の活用により、機械化一貫体系を導入した生産への取組が進められています。

(花き)

仙南地域は古くから花きの生産が盛んな地域で、輪ぎく、小ぎく、鉢ものの類、花壇苗ものの類とも作付面積は県内上位となっています。施設・露地いずれも、県内においては産地として知られていますが、高齢化が進んでいることから、適期の栽培管理や病虫害防除が困難となっています。また、露地栽培が多いため気象等の影響を受けやすく、開花期や品質が安定しないため単位面積当たりの販売額は他地域に比べ低い状況にあり、今後産地の維持が課題です。

(果樹)

果樹栽培は、県内で最も盛んな地域で、生産者・栽培面積が最多です。果樹は、植栽から結果樹齢に達するまでに一定の期間を要し、せん定等の栽培管理には経験に伴う高度な技術を要求されるため、新規栽培者の参入が困難です。さらに、生産者の高齢化、後継者不足が進む中で、近年は気象災害や温暖化起因とみられる病虫害に見舞われ、生産力の維持やリスク分散が課題となっています。

(特用林産物)

原木しいたけは、県内最大の産地でしたが、平成 23 年度に発生した東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により、露地栽培のしいたけの出荷制限が未だに継続しているため、生産者が著しく減少しています。また、生産再開後も露地での生産量確保が課題となっています。菌床しいたけでは生産が安定し、地場産業として定着しています。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t、千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t、千本(鉢))	産出額 (千万円)
野菜	いちご	7.7	278.5	35.5	花き	輪ぎく	8.7	874.0	5.2
	きゅうり	8.0	432.5	16.9		スプレーぎく	1.3	163.0	0.9
	トマト	2.6	132.0	3.7		鉢もの類	4.4	289.0	10.7
	ねぎ類	6.0	60.0	1.6		花壇用苗もの類	5.8	2,685.0	20.1
	たまねぎ	6.7	201.0	0.8		小ぎく	3.1	519.0	2.1
	えだまめ	3.0	12.0	0.4		トルコギキョウ	2.6	563.0	6.5
	そらまめ	9.8	107.0	3.2	果樹	りんご	53.0	600.0	12.6
	スイートコーン	13.2	198.0	2.0		日本なし	89.2	1,400.0	32.9
	さやいんげん	3.5	21.0	0.6		ぶどう	2.5	11.2	0.8
	つるむらさき	4.5	203.0	6.5		小果樹類	9.6	5.6	1.2
	ブロッコリー	34.0	83.0	3.8		もも	19.1	180.0	3.9
	だいこん	69.1	740.0	7.4		うめ	210.3	600.0	8.2
	にんじん	2.4	31.0	0.3		かき	225.0	206.0	8.9
	さといも	5.4	28.7	0.8		いちじく	43.4	30.0	1.6
	きくいも	0.9	1.6	0.1		西洋なし	3.3	46.0	1.1
	えごま	2.4	1.2	1.2	特用 林産	しいたけ	—	29.8	2.8
	じねんじょ	0.7	5.0	0.2		たけのこ	67.0	37.0	1.9
	さつまいも	0.0	0.0	0.0					

※野菜：「H30 農協販売実績」等、花き：「H30 花き産業振興総合調査」、果樹：「H30 特産果樹生産動態等調査」、
特用林産：「H30 特用林産物需給動態調査」

Ⅱ 園芸特産振興の方向性

園芸産地再興に向け、重点振興品目を中心にして、機械化による省力・低コストが可能な土地利用型園芸の推進や、地域の特性を活かしてブランド化を図る地域特産園芸を促進し、仙南地域の特色ある園芸産地の再興を推進します。

「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」（以下同様）

基本方針１：先進技術を駆使した施設園芸の推進

施設園芸については、環境制御技術等の活用や技術革新を進め、技術の定着・促進、普及を図り、より一層の高品質生産・多収化を目指します。また、市場出荷に加え、消費者と連携した新たな商品づくりなど、直売所等の多様な販路を拡大し有利販売に結びつける取組を促進します。

基本方針２：大区画は場を活用した露地園芸の推進

露地園芸については、農地集積や農地整備事業等と連携し、水田等における高収益園芸品目栽培の導入・推進・定着を図ります。そのため、機械化一貫体系等による効率的な作業体系を推進します。

基本方針３：食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築

安全で安心できる農産物の供給と循環型社会への転換を進めるため、各種認証・表示制度への加入定着・拡大を図るとともに、GAPへの取組強化を促進します。また、地域ブランド品目のタイムリーなPR活動を展開し、消費者から信頼される「安心・安全」で高品質な商品の安定供給を図る等、販売促進に繋がる取組を支援します。

基本方針４：園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成

地域の特産となっている園芸品目については、既存の産地の維持発展のため、集落営農組織等の新たな担い手の活用、技術・経営の継承を進めます。担い手・労働力不足が顕在化しており、労働力の安定確保や機械化体系の導入による栽培面積の維持を図り、産地の活性化を目指します。

Ⅲ 重点振興品目 ３４品目（内訳 野菜１８、花き５、果樹９、特用林産２）

１ 県戦略品目 １３品目（内訳 野菜６、花き３、果樹３、特用林産１）

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	高品質生産技術の確立と安定供給力の強化
		<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の育成及び新規栽培者の確保・育成 ・病虫害防除の徹底による生産性の向上 ・新技術及び新品種の導入による生産性の向上 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立 ・６次産業化の推進 ・夏秋いちごのブランド確立
	きゅうり	担い手の確保による産地活性化と高品質安定生産技術の確立
		<ul style="list-style-type: none"> ・生産力増強に向けた作付の推進 ・基本的技術の励行による生産の高位平準化 ・病虫害対策の徹底による生産性の向上 ・環境に配慮した持続的な生産の推進 ・地元市場への出荷誘導による地産地消の推進 ・多様なニーズに対応できる販売力のある産地づくり
	トマト	多様なニーズに対応した周年安定供給力の強化
		<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者及び若手生産者の育成 ・基本的技術の励行による安定生産と品質の平準化 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立 ・安定した所得の確保に向けた供給のあり方と単価確保 ・産地活動の拡大による産地の活性化
	ねぎ類	若い担い手を核としたねぎの高品質安定生産
		<ul style="list-style-type: none"> ・若手農業者と新たな担い手への生産振興 ・基本技術の励行による安定した生産、供給 ・長期安定出荷に向けた誘導、支援 ・農商工連携・推進 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立
	たまねぎ	実需に対応したたまねぎの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・作付誘導 ・栽培技術の向上 ・需要拡大と実需者ニーズへの対応 ・省力化支援 ・農商工連携・推進 ・流通・販売の推進 ・たまねぎ栽培による農業経営の向上と安定化

野菜	えだまめ	良食味・高品質なえだまめの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・集团的取組の強化 ・収量と品質の安定化推進 ・長期安定出荷の実現 ・実需需要への対応推進
花き	輪ぎく	省力品種・技術の導入と担い手の確保による産地の活性化
		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化 ・新規就農者、女性及び高齢者などへの複合経営導入推進 ・高品質安定生産の推進 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャンネルの確立 ・ブランド化の推進 ・情報発信による消費拡大
	スプレーぎく	品質向上と他品目との組み合わせによる経営安定化
		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化 ・新規就農者、女性及び高齢者などへの複合経営導入推進 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・短茎栽培など新技術導入による生産性の向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャンネルの確立 ・ブランド化の推進 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築
	鉢ものの類	品質向上と魅力ある品目・品種の導入による産地化の推進
		<ul style="list-style-type: none"> ・高品質安定生産の推進 ・経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・新品目導入、開花調節技術開発など生産性の向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャンネルの確立 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築
	花壇用苗ものの類	需要者ニーズに合う花壇用苗ものの類生産と経営安定化
		<ul style="list-style-type: none"> ・高品質安定生産の推進 ・経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・新品目の導入、新商品に合った栽培方法の確立 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・新たなニーズに対応した新品目の導入や新商品の展開等販売戦略の強化 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築

果樹	りんご	地球温暖化に対応した栽培技術の向上と後継者の育成 ・適期防除による生産の安定化 ・省力化技術の推進 ・既存園地の生産力維持 ・果実の着色不良対策 ・新たな商品、加工品開発支援 ・管内産果実の知名度向上 ・後継者の育成
	日本なし	高品質安定生産によるブランド力の向上 ・適期防除による生産の安定化 ・既存園地の生産力維持 ・省力技術や樹形の導入による労働生産性の向上 ・輸出継続によるブランド力の向上 ・契約販売による安定出荷 ・後継者の育成 ・廃園、放任園対策
	ぶどう	栽培面積の拡大と栽培管理技術の向上 ・基本的栽培技術の向上 ・技術研修会等の実施 ・実需者等のニーズを捉えた出荷支援 ・醸造用ぶどう生産者の連携強化
特用林産	しいたけ	消費者への安全・安心のPRと生産及び販売量の拡大 ・担い手の育成 ・生産機械・設備の整備 ・安全・安心な生産物の確保 ・消費拡大活動 ・商品開発 ・有利販売対策

2 地域戦略品目 2 1 品目(内訳 野菜12、花き2、果樹6、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	そらまめ	ブランドカ向上による産地の維持・発展
		<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積の確保と生産振興 ・連作障害対策の確立と実践 ・収量と品質の確保対策 ・ブランドカを活かした産地PR活動
	スイートコーン	消費者から信頼される高品質なスイートコーンの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・産地の維持・発展に向けた生産振興 ・栽培管理技術の向上による生産の安定 ・鳥獣被害の軽減による生産性の向上 ・長期安定供給の実現 ・産直活動の拡大 ・消費者に支持される安全・安心な商品づくり
	さやいんげん	担い手確保によるさやいんげんの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・産地の維持・発展に向けた生産振興 ・収量向上対策 ・連作障害回避による持続的な産地づくり
	つるむらさき	施設利用による特色あるつるむらさきの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・生産拡大に向けた産地強化と技術向上 ・環境に配慮した産地の取組拡大 ・安定出荷に向けた産地づくりとブランドカ・販売力の強化 ・顧客ニーズへの対応促進
	ブロッコリー	持続性の高いブロッコリー産地育成
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の励行による収量向上 ・連作障害の回避 ・大規模栽培者の育成 ・長期安定出荷体制の整備 ・産地のブランド確立
	だいこん	地域振興作物としての「だいこん」の安定生産と拡大
		<ul style="list-style-type: none"> ・産地拡大に向けた生産振興 ・基本技術の励行による安定生産 ・消費者ニーズに対応した販売戦略の構築 ・実需に対応した販売支援 ・農産加工品の生産
	にんじん	地域に合った栽培体系の確立と産地育成
		<ul style="list-style-type: none"> ・産地拡大に向けた生産振興 ・基本技術の励行による安定生産・供給 ・農商工連携・推進 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立

野菜	さといも	ブランドカを活かした信頼性の高いさといもの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・労働力確保による生産の安定化 ・担い手の明確化による重点的な支援 ・ブランドカを活かした販売戦略による産地活性化
	きくいも	「健康野菜 きくいも」の認知度向上とブランド化
		<ul style="list-style-type: none"> ・柴田農林高校、関係機関との連携による生産振興 ・市町のイベント等でのPR ・直売所の連携によるPR推進
	えごま	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害の少ないえごま栽培による耕作放棄地対策 ・多彩な担い手への生産振興による産地の維持 ・収穫量の安定・品質確保 ・商品開発、販路拡大
	じねんじょ	ブランドカを生かした地域特産品「じねんじょ」の生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・収量・品質の向上 ・多彩な担い手への生産振興による産地の維持 ・ブランドカ・販売力の強化
	さつまいも	土地利用型作物及び高収益作物としての生産体制の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上による収量安定 ・機械化体系の確立 ・販路の確立
花き	小ぎく	省力的な小ぎく生産による産地の活性化
		<ul style="list-style-type: none"> ・良質な苗生産の体制づくり ・需要期出荷のための生産技術確立 ・高品質生産による収益性向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・産地の活性化
	トルコギキョウ	地域に合った栽培体系の確立による産地の育成
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の習得、定着 ・地域に合った栽培体系の確立 ・高品質生産による収益性向上 ・実需者ニーズに合った品種の導入 ・市場開拓による販路拡大 ・販売体制の整備
果樹	小果樹類	ブルーベリーの基本的な栽培管理技術の確立
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な栽培管理技術の向上 ・果実の加工支援
	もも	改植の推進と新品種の導入による産地の活性化
		<ul style="list-style-type: none"> ・改植の推進による園地の生産性向上 ・もも園土壌の改善 ・優良な新品種の導入による収益性の向上

果樹	うめ	基本技術の徹底による高品質果実の生産
		<ul style="list-style-type: none"> ・ せん定方法の改善、習得 ・ 規格外品の減少による商品化率の向上 ・ 消費者ニーズに合った品種の導入
	かき	病虫害防除技術の向上による干し柿原料の安定生産
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 病虫害防除技術の普及による安定生産 ・ 低樹高栽培技術の普及による栽培管理の効率化と省力化 ・ 干し柿のブランド化支援
	いちじく	基本的な栽培管理技術の向上による高品質果実の生産
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な栽培管理技術の向上 ・ カミキリムシ類防除の徹底による安定生産 ・ イチジク株枯病対策 ・ 熟期促進技術による有利販売 ・ 生食用品種の導入による消費の拡大 ・ 実需者等への P R
	西洋なし	基本的な栽培管理技術定着及び高品質果実生産への支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的栽培管理技術の向上 ・ 情報発信による消費拡大
特用林産	たけのこ	ブランドカを活かした信頼性の高いたけのこの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働力の確保や機械化体系の導入による生産の安定化 ・ ブランドカを活かした販売戦略による産地活性化

IV 品目別アクションプラン

【いちご】

高品質生産技術の確立と安定供給力の強化

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
促成作付面積 (ha)	5.4	5.7	5.9	6.5	120.0%
促成出荷量 (t)	172.9	190.6	209.2	249.0	144.0%
促成産出額 (千万円)	19.5	21.5	23.6	28.1	144.0%
夏秋作付面積 (ha)	2.3	2.4	2.5	2.8	120.0%
夏秋出荷量 (t)	105.6	116.4	127.8	152.1	144.0%
夏秋産出額 (千万円)	16.0	17.6	19.4	23.0	144.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- 管内のいちご生産は、促成栽培が主に蔵王町、角田市及び丸森町で、夏秋栽培ではセッケ宿町、蔵王町で生産されている。
- 主要品種は、促成栽培が「もういっこ(蔵王町)」、「とちおとめ(角田市・丸森町)」、夏秋栽培が「すずあかね」を栽培している。
- 他産地同様高齢化が進んでいるが、普及センタープロジェクト課題で取り組み環境制御等の先進技術や不耕起栽培等の省力化技術が普及しつつあり、収量、販売金額は増加傾向にある。
- 県単補助事業等の活用により光合成促進器やUV-Bランプ等先進技術に取り組む機器の導入が進んでいる。

○流通・販売面

- 促成いちごは、蔵王町産が主に仙台市場へ系統出荷、角田市・丸森町産が主にみやぎ生協へ契約出荷され、生協GAPの取り組みがなされている。
- 夏秋いちごでは、約50%が京浜市場の仲卸業者、約50%が地元菓子店等の実需者へ直接販売されている。
- 地元加工業者からは周年での地場産いちごを使用したいとの要望が寄せられている。

○課題等

- 高設栽培、不耕起栽培等の導入により、後継者及び新規就農者の確保・育成と高齢者の労働負担軽減を図り、産地の維持・活性化を目指す。
- 病虫害防除の徹底等、基本技術の励行と新技術や「にこにこベリー」等有望品種の導入による収量及び品質の向上を図る。

- ・生食用に対する安全・安心面でのニーズは高い。このため各種認証制度やGAPへの取り組み等による生産者の意識向上と情報交換が必要である。
- ・実需者とのマッチング及び周年出荷体制の確立支援により、「夏秋いちご」のブランド確立と6次産業化を目指す。

3 具体的振興策

- 後継者及び新規栽培者の確保・育成、高齢栽培者の経営継続による産地の維持・発展
- 生産性の向上及び実需者ニーズに対応した生産技術の確立
- 「夏秋いちご」のブランド確立と6次産業化の推進

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南蔵王いちご部会
- JAみやぎ仙南角田苺部会
- 杜のいちご会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	後継者の育成及び新規栽培者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者及び新規栽培者の掘り起こしと高齢栽培者の経営継続 ・促成いちごにおける高設栽培、不耕起栽培等の労力軽減技術の導入推進
	病虫害防除の徹底による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の適期防除の徹底指導 ・各種補助事業を活用した防虫ネットの導入支援
	新技術及び新品種の導入による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・有望新品種の導入支援 ・安定生産に向けた環境制御技術の導入支援
	消費者ニーズに対応した生産技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・天敵利用等による生物防除技術及び耕種的防除技術の導入拡大 ・各種認定制度やGAPへの取り組み支援
流通・販売	6次産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者とのマッチング支援 ・地域・地域組織間連携による周年供給体制の確立支援
	夏秋いちごのブランド確立	<ul style="list-style-type: none"> ・夏秋いちごのブランド化支援 ・実需者ニーズに対応した生産管理の徹底指導
その他		

【きゅうり】

担い手の確保による産地活性化と高品質安定生産技術の確立

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
促成作付面積 (ha)	4.7	4.9	5.2	5.6	120.0%
促成出荷量 (t)	412.6	454.9	499.2	594.1	144.0%
促成産出額 (千万円)	13.8	15.2	16.7	19.9	144.0%
夏秋作付面積 (ha)	3.3	3.5	3.6	4.0	120.0%
夏秋出荷量 (t)	20.0	22.1	24.2	28.8	144.0%
夏秋産出額 (千万円)	3.1	3.4	3.8	4.5	144.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・夏秋きゅうりは、蔵王町を中心に露地栽培が行われ県内第1位の産地で、国の指定産地にもなっている。
- ・角田市、丸森町では、無加温ハウス栽培(促成＋抑制の年2作体系)が、白石市ではもろきゅうり(露地(年単作)とハウス栽培(促成、抑制の年2作体系))栽培が行われている。
- ・生産者の高齢化により、作付面積及び出荷量は減少傾向にある。また、近年常態化している異常気象への対応などにより生産者の収量・品質に差があり、排水対策等ほ場条件の整備が課題となっている。
- ・病害虫被害の関係では、褐斑病やホモプシス根腐病等の病害やアザミウマ類等の難防除害虫の防除が課題となっている。

○流通・販売面

- ・夏秋きゅうり及びハウスきゅうりの共販品は、ほぼ全量が京浜市場へ出荷されている。また、もろきゅうりは高級食材として京浜市場のほか、大阪や京都の市場へも出荷されている。
- ・夏秋きゅうりは、露地主体のため、天候や他産地との出荷競合により価格が乱高下しやすい。

○課題等

- ・高齢化による作付面積及び出荷量が減少しているため、新たな担い手となり得る個人及び集団等への働きかけと合わせ、作付希望者に対し、地域内の潜在する人材等も活用した技術指導を図り産地の維持発展に努める。
- ・夏秋きゅうりは、県内第1位の産地である強みを活かした産地PRを積極的に行い、仙台市場や地元小売店等県内及び圏域内における消費拡大を推進し、流通コスト削減と地産地消及び6次化産業化を図る。

- ・排水対策等ほ場条件の整備や土壌診断に基づく適正な肥培管理、適期作業の実施等基本技術の励行による収量・品質の高位平準化を図り、夏秋きゅうりの目標単収 10 t / 10 a 以上の確保を目指す。
- ・耐病性品種の導入や病害虫の適期防除の徹底、栽培環境の改善等により、難防除病害虫対策の確立を図るとともに、環境へも配慮した持続的な生産を推進する。

3 具体的振興策

- 生産力の増強を目的に新規生産者の掘り起こしを推進
- ほ場条件の整備と基本技術の励行による生産性の向上と高位平準化
- 環境に配慮した持続的な生産の推進による産地の維持
- 地域内外における消費拡大に向けた産地 P R 活動

4 主な担い手(部会)等

- J A みやぎ仙南きゅうり部会
- J A みやぎ仙南白石地区もろきゅうり部会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	生産力増強に向けた作付の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新規作付者の掘り起こし及び希望者に対する技術支援や経営の安定に向けた支援 ・施設化の推進
	基本的技術の励行による生産の高位平準化	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝や摘果等の管理技術の適期実践指導 ・ほ場条件の改善および土壌診断に基づいた適切な肥培管理と草勢管理の徹底指導
	病害虫対策の徹底による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・耐病性品種の導入、土壌消毒の励行及び難防除病害虫に対する適切な薬剤選定と適期防除の徹底指導
	環境に配慮した持続的な生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・施設園芸における天敵利用及び循環扇による病害虫被害軽減技術の導入推進 ・還元土壌消毒や太陽熱消毒等の農薬節減栽培の取組推進
流通・販売面	地元市場への出荷誘導による地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市場等や地元小売店等への出荷誘導 ・産地の取組強化及び仙南ブランドを活かせる販路の確保支援
	多様なニーズに対応できる販売力のある産地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度及び販売力向上に向けた積極的な消費宣伝活動の推進
その他		

【トマト】

多様なニーズに対応した周年安定供給力の強化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.6	2.7	2.9	3.1	120.0%
出荷量 (t)	132.0	145.5	159.7	190.1	144.0%
産出額 (千万円)	3.7	4.1	4.5	5.3	144.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・生産の中心は、主に角田市で生産者数及び作付面積は少ないが中核専業農家が生産の核を担っており、若手の生産者も比較的多く、新規参入者もみられる。
- ・生産の主体は大玉トマトの無加温ハウス半促成栽培および夏秋栽培であるが、一部直売所向けの中玉トマトやミニトマトも栽培されている。
- ・近年の夏季における異常高温など常態化する異常気象の影響で安定収量の確保が難しくなっている。
- ・みやぎ生協との契約栽培では生産性(収量)の向上と食味の確保の両立が課題となっている。

○流通・販売面

- ・角田市の生産部会は、主にみやぎ生協と契約出荷し、一部では生協GAPや各種認証制度への取り組みが行われている。
- ・系統出荷のほか、産直への取り組みが進んでいる。産直交流の一環では生産者と消費者との相互理解を深めるための交流が行われている。

○課題等

- ・将来的にも産地の維持・発展が求められる。このためにも計画的に地域の新規就農者や若手生産者を重要な担い手と位置づけ、重点的な栽培技術及び経営管理指導により、育成を目指す。
- ・産直施設や飲食施設等の主要品目であるトマトの品揃えを充実させ、消費者との交流や実需者との契約販売等の拡大により産地の活性化を図る。
- ・各種認証制度やGAPへの取り組み拡大に向け、生産者の意識向上が必要である。併せて、販売単価の向上を図るため、他産地と競合し難い作型等についての検討が必要である。
- ・加温設備の導入や夏季の高温対策技術への取組により収穫期間の延長と収量向上を図る。

3 具体的振興策

- 新規就農者及び若手生産者の育成による産地の維持発展
- 生産の高位安定化と消費者ニーズに対応した生産技術の確立
- 産直活動の拡大による産地の活性化

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南(角田)トマト部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	新規就農者及び若手生産者の育成	・栽培技術及び経営管理技術指導
	基本的技術の励行による生産の高位平準化	・土壌診断結果に基づく適正な施肥指導 ・加温設備導入と夏季高温対策技術導入による収穫期間の延長推進 ・適期管理の励行と病害虫の初期防除の徹底指導
	消費者ニーズに対応した生産技術の確立	・各種認定制度の継続的な実施とG A Pへの取組支援
流通・販売面	安定した所得の確保に向けた供給のあり方と単価確保	・実需者ニーズや他産地の動向に配慮した作付体系の模索
	産地活動の拡大による産地の活性化	・生産履歴及び栽培情報や料理レシピ等、産地からの積極的な情報発信の支援 ・産直及び業務向け有望品種の導入支援
その他		

【ねぎ類】

若い担い手を核としたねぎの高品質安定生産

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	6.0	6.5	7.2	8.0	133.3%
出荷量 (t)	60.0	72.0	86.0	120.0	200.0%
産出額 (千万円)	1.6	2.2	2.6	3.6	225.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・仙南地域のねぎは、角田市を中心に全域で生産され、主に、秋から春先にかけて出荷されている。
- ・近年、角田市では、若手の生産者や集落営農組織による本格的な生産に取り組み始めており、産地の活性化に繋がっている。更に基本技術の習得と併せて、省力的な生産体系の構築に向けた取り組みが行われている。
- ・栽培方法に拘った量販店や加工用・業務用のニーズの高まりが続いている。このような中で、安心安全や新鮮さ、用途に合わせた出荷規格など様々なニーズに即した出荷が求められてきており、産地としての生産拡大が見込まれる。

○流通・販売面

- ・系統出荷と直売所や直接取引による販売がバランス良くなされている。
- ・既存の取引先に加え、近年実需者よりの加工・業務用ねぎの需要が高まっており、契約取引も視野に取組みを行う。

○課題等

- ・新たに取り組む生産者に対し、基本技術の習得を推進し、生産性の安定化を図る。
- ・実需者ニーズに対応した高品質なねぎの長期安定出荷により、産地としてのブランド化を目指す。
- ・品質と収量の向上に向け、土づくりや栽培技術の改善を推進する。

3 具体的振興策

- 土づくりと基本技術の励行による収量と品質向上
- 機械化による省力生産技術の導入
- 高品質で安全・安心な生産物の長期安定出荷体制の確立
- 産地としての一体的な生産出荷体制づくり

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南ネギ部会
- J Aみやぎ仙南丸森地区産直部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	若手農業者と新たな担い手の生産振興	・ 集落営農及び法人組織への作付誘導 ・ 基本的な管理技術の徹底と土壌診断結果に基づく適正な肥培管理指導の徹底
	基本技術の励行による安定した生産・供給	・ 消費者、実需者ニーズを念頭に置いた安定生産技術の徹底指導
	長期安定出荷に向けた誘導・支援	・ 作期拡大に向けた適正品種の選定と栽培技術の習得及び作型の検討を進める。
流通・販売面	農商工連携・推進	・ 実需者とのマッチングによる販路の開拓
	消費者ニーズに対応した生産技術の確立	・ 県認証制度やG A P手法導入等への取組支援
その他		

【たまねぎ】

実需に対応した「たまねぎ」の生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	6.7	20.0	20.0	20.0	298.5%
出荷量 (t)	201.0	600.0	700.0	860.0	427.9%
産出額 (千万円)	0.8	2.4	3.4	5.0	625.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・管内市町では水田フル活用ビジョンで示した土地利用型野菜の対象品目として面積拡大を推進している。
- ・国や県で取り組まれた機械化体系の実証の成果が示されており、機械化による省力化と産地拡大とが見込まれ、管内でも生産者組織が主体となった事業導入により機械化が進んできている。
- ・ほ場整備等に関連し、水田農業の活性化に向けた計画の中で、水田の有効活用を図る上で土地利用型野菜の取組が必須要件となっており、「たまねぎ」は有望な品目となっている。
- ・作期拡大に向け導入を進めている春たまねぎについては、経験年数の少ない生産者が多く、管理技術の向上と平準化が必要である。

○流通・販売面

- ・機械化体系の導入に伴い、作付面積が拡大してきており、生産者組織による出荷体制も整いつつある。
- ・加工・業務需要の増加が続いており、安定品質・安定出荷への要望が更に強まっている。

○課題等

- ・新規生産者や春たまねぎ新規導入者に対する栽培技術の習得支援と平準化の推進。
- ・実需者のニーズを意識した生産出荷の実現。
- ・導入した機械の共同利用を効果的に進めるため、地域や生産者毎の作付計画作成に基づく機械の有効利用体制の確立。
- ・作柄が気象条件により大きく変動することが多く、たまねぎ栽培に適した土づくりやほ場の改善を含めた環境整備による収量品質の安定化を進める必要がある。

3 具体的振興策

- 水田農業における高収益作物としての導入推進
- 基本技術の励行による収量・品質の安定
- 様々な作型に対応した栽培技術確立
- 機械化の推進のための機械の有効利用体制の確立
- 安定的な高品質長期出荷に向けた作型の組み合わせの検証(普通栽培と春たまねぎ栽培の組み合わせ)
- 環境変化の影響を抑制するためのほ場条件の改善

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南たまねぎ部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	作付誘導	・栽培技術及び経営管理技術指導 ・ほ場整備による汎用化水田での作付誘導
	栽培技術の向上	・基本的な栽培技術の徹底 ・様々な作型に対応する栽培技術の確立 ・土づくり及びほ場環境改善
	需要拡大と実需者ニーズへの対応	・実需者ニーズを意識した生産出荷のための栽培技術習得と徹底 ・複数の作型の組み合わせによる作期拡大の実現
	省力化支援	・共同利用機械の有効利用の推進による機械化体系の普及
流通・販売面	農商工連携・推進	・実需者のニーズを捉えたマッチングによる販路拡大
	流通・販売の推進	・集出荷調製施設・乾燥施設の有効活用支援
その他	たまねぎ栽培による農業経営の向上と安定化	・作付け誘導と作付面積拡大に向けた営農計画指針の整理

【えだまめ】

良食味・高品質なえだまめ生産の振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	3.0	4.0	6.0	8.5	283.3%
出荷量 (t)	12.0	16.0	24.0	34.0	283.3%
産出額 (千万円)	0.4	0.6	1.0	1.4	350.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・水田農業における収益性の確保やほ場整備事業における高収益作物としての導入推進により作付面積は増加傾向にある。その一方で従来の栽培ほ場は小面積で散在している。そのような中で大河原町では、農事組合法人が比較的まとまった面積で栽培を行っている。また、角田市では「秘伝豆」を核としたイベントに関連し、生産が拡大傾向にある。
- ・一部では、脱莢機が導入され、また、播種から収穫までの機械化一貫体系も構築されている。

○流通・販売面

- ・流通は、一部で系統出荷があるものの、自家消費や直売所向けの出荷が多い。また、出荷時期が8月中心となり、販売単価を下げる要因になっている。
- ・高温期の出荷では、予冷等の鮮度保持への取り組みが重要であるが、一部で品質の低下が問題になっている。
- ・地元の加工業者からは、地場産に対する需要が多い。
- ・品種の統一が図られておらず、地域ごとの作型と品質のばらつきが大きい。

○課題等

- ・個人農家による生産から、集落営農組織や農業生産法人等による栽培や水田転作における団地化等、地域ぐるみでの新たな担い手による生産振興を図る。併せて、省力化とコスト削減を目指す。
- ・基本的な栽培管理技術の習得と栽培環境の改善を図るとともに、作付け品種の絞り込みにより、地域としての作型の平準化と収量と品質の安定化を図る。
- ・長期出荷が望まれる中、作型や品種の組合せによる出荷期間の拡大を図るとともに、予冷库の導入促進による実需者ニーズを満たした高品質な商品の安定供給力を目指す。
- ・収入見込が容易になるように、実需者とのマッチングの推進による契約出荷の拡大と販売単価の安定を目指す。

3 具体的振興策

- 産地の拡大と生産コストの削減
- 実需者ニーズに応じた商品の安定出荷の実現

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南
- 農事組合法人かながせ ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	集団的取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織及び農業生産法人等に対する作付け導入支援 ・水田フル活用に向けた団地化の推進 ・団地化と省力化に向けた機械化の推進
	収量と品質の安定化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・品種と作型の検討及び基本的な栽培技術の習得による収量の安定化と品質向上 ・予冷等の鮮度保持技術への取組み推進
	長期安定出荷の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・作期拡大に向け、品種構成や栽培方法の改善により7～10月にかけて長期出荷
流通・販売面	実需需要への対応推進	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者ニーズの整理と産地シーズのマッチング推進による販路拡大
その他		

【そらまめ】

ブランド力向上による産地の維持・発展

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	9.8	8.5	9.2	9.2	93.9%
出荷量 (t)	107.0	102.0	110.0	115.0	107.5%
産出額 (千万円)	3.2	3.1	3.3	3.5	109.4%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- 管内全域で広く生産され統一部会が設置されている。管内の複数の市町では水田農業ビジョンの園芸重点振興品目になっており、特に村田町、蔵王町の作付けが多い。
- 生産の高齢化と後継者不足により、収穫調整作業における労働力の確保が困難になってきている。更に収量や品質の年次変動が大きく収入が不安定である等の理由から、生産者数及び栽培面積の減少が著しい。また、古くからの産地であるため、連作障害により平均収量も頭打ちになっている。

○流通・販売面

- 古くから県内第1位の産地であり、仙南地域のそらまめは知名度とブランド力が高い。このため系統出荷は京浜市場70%、仙台市場30%である。また、村田町では直売所やゆうパック等による直売活動へも取り組んでいる。
- 系統出荷のほか、産直への取り組みが進んでいる。産直交流の一環では生産者と消費者との相互理解を深めるための交流が行われている。
- 近年、全国的な作付面積及び流通量の減少を受け、平均単価は安定している。

○課題等

- 既存の個別農家の作付面積拡大に加え、集落営農組織等の新たな担い手による作付け誘導を進め、産地の維持確保と生産振興に努める。
- 収量や品質を向上させるため、土壌分析に基づく土づくりや、適切なほ場条件の改善、基本的な栽培管理技術徹底を図る。
- 他作物との輪作体系の推進や病害虫の適期防除の徹底、未利用遊休農地の有効利用を含めたほ場ローテーションを推進し、連作障害の軽減による安定的な栽培と品質確保を図る。
- 収穫期間が短く天候に左右されやすいため、直売所や各種イベント等における知名度を活用した、タイムリーな産地PR活動の展開による産地活性化を図る。

3 具体的振興策

- 作付面積確保対策(水田農業における高収益作物としての導入推進、個々の作付面積の拡大、担い手確保育成)によるそらまめ産地の再興
- 連作障害対策の確立と実践による生産量の安定化
- ブランドカを活かしたPR活動による産地の活性化

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南そらまめ部会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	作付面積の確保と生産振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備事業の導入に伴う高収益作物としての作付け面積拡大 ・集落営農組織や農業生産法人等への作付誘導 ・個別農家の作付面積拡大誘導
	連作障害対策の確立と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・他作物との輪作体系の推進 ・土壌消毒をはじめとする病害虫防除対策指導 ・ほ場ローテーションによる作付体系改善推進 ・適正な土づくり等による病害の出にくい栽培環境整備の推進
	収量と品質の確保対策	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析を基にした土づくりと土壌環境改善支援 ・基本的な栽培技術の再確認と励行の徹底
流通・販売面	ブランドカを活かした産地PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントや直売施設における販売促進活動支援 ・マーケティングや消費宣伝活動による消費拡大の啓発推進
その他		

【スイートコーン】

消費者から信頼される高品質なスイートコーンの生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	13.2	15.0	18.0	20.0	151.5%
出荷量 (t)	198.0	220.0	270.0	300.0	151.5%
産出額 (千円)	2.0	2.2	2.7	3.0	150.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- 管内一円で作付面積が増加してきている。生産者は60代が中心で高齢者が多いが、産地の活性化や水田農業における高収益作物としての導入が増えてきている。
- 先行産地である村田町の主な品種は「味来 390」で高糖度で良食味が売りであるが、発芽率や生育量など栽培面での課題があり、目標収量を達成できていない。
- また白石市では白石三白野菜の一つとして白色種の「ピュアホワイト」の生産振興が図られている。PRイベントや消費宣伝活動により一般消費者への認知度は向上してきているが、品質や収穫サイズ確保に向け、きめ細かな栽培管理が必要であり、技術の習得と平準化が課題となっている。
- 全域にわたり野生鳥獣による被害の増加傾向が続いており、やむなく作付けを諦める生産者も出るなど、広域的な対策が求められている。

○流通・販売面

- 村田町物産交流センターでの直売が主であり、恒例化しているPRイベント等の効果で安定した販売が続いている反面、市場出荷はほとんど行われていない。
- 白石市での「ピュアホワイト」は平成31年4月にリニューアルされた農産物直売施設「おもしろいし市場」など産直施設での販売がメインであり、市場出荷はほとんどなされていない。
- 直売が主体であるため、消費者からのクレーム対応が多いこともあった。
- 品質や収量に対する年次間差が大きく、購入希望者の意向に添えない場面もあり、安定生産の実現が求められている。

○課題等

- 個人農家による生産から、集落営農組織や農業生産法人等による栽培や水田転作における団地化等地域ぐるみでの新たな担い手による生産へ誘導し生産の面的拡大を図る。
- 栽培管理技術の向上と鳥獣害の軽減を図り、目標収量1t/10a以上の確保と秀品率向上を目指す。

- ・産直施設やイベント等での販売拡大により、産地活性化と地産地消を推進する。併せて、顧客対応力の向上と産地情報の発信により、消費者から信頼される「安全・安心」で良食味な商品の安定供給を図る。

3 具体的振興策

- 栽培面積の拡大と生産の安定化
- 産直活動の拡大と地産地消の推進
- 消費者から信頼される「安全・安心」で高品質な商品の生産・供給に向けた栽培技術の習得と平準化

4 主な担い手(部会)等

- 「おもしろいし市場」生産部会
- 村田ファーマーズ ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	産地の維持・発展に向けた生産振興	・水田農業における収益性向上のための高収益作物としての導入推進
	栽培管理技術の向上による生産の安定	・移植栽培の推進 ・虫害防除や各種管理の適期実施に向けた指導 ・土壌診断に基づく土づくりと肥培管理の励行推進
	鳥獣被害の軽減による生産性の向上	・各種補助事業等活用による鳥獣被害軽減技術の導入支援
流通・販売面	長期安定供給の実現	・栽培様式や播種時期の組合せによる長期安定供給体制の構築に向けた支援
	産直活動の拡大	・地域の産直施設や各種イベント等を活用した販売強化支援
	消費者に支持される安全・安心な商品づくり	・生産履歴や栽培情報等、産地情報の発信支援 ・栽培検討会や出荷目揃え会などの実施による品質向上への意識付け支援
その他		

【さやいんげん】

担い手確保によるさやいんげんの生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	3.5	3.0	3.5	3.5	100.0%
出荷量 (t)	21.0	18.0	23.0	23.0	109.5%
産出額 (千万円)	0.6	0.5	0.7	0.7	116.7%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・主に丸森町、白石市で生産が行われ露地栽培が主体である。栽培管理が比較的容易で、出荷単位も2kgと軽量であるため、高齢者にも取り組みやすく生産者は70代が中心である。
- ・品種は主に、つる有種が栽培されているが、一部のほ場では、連作障害や病害虫による収量及び品質の低下が懸念されている。

○流通・販売面

- ・大部分が系統出荷で仙台市場への出荷がメインであるが、一部京浜市場への出荷もなされている。
- ・近年系統出荷以外の農産物直売施設への出荷も増加してきている。

○課題等

- ・兼業農家及び定年退職後の帰農者等、多様な担い手とともに地域特産野菜として生産を振興し、作付面積及び販売金額の維持を図る。
- ・土壌診断に基づく適正な肥培管理や、病害虫の適期防除の徹底により、目標収量1t/10a以上確保するとともに品質向上を図る。
- ・他品目との輪作体系の構築により連作障害を回避し、持続的な産地づくりを目指す。

3 具体的振興策

- 担い手の確保育成による産地の強化
- 基本技術の励行による収量の向上
- 継続的な収量性向上に向けた取り組みが可能な産地づくり

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南丸森地区いんげん部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	産地の維持・発展に向けた生産振興	・水田農業における高収益作物としての導入推進
	収量性向上対策	・土壌診断結果に基づいた適切な施肥指導 ・病虫害の適期防除の励行に向けた指導
	連作障害回避による持続的な産地づくり	・他作物との輪作体系の構築指導 ・ほ場ローテーションによる生産性の安定化促進
流通・販売面	長期安定供給の実現	・栽培様式や作型の見直しと組み合わせによる長期安定出荷の実現
その他		

【つるむらさき】

全国第2位を支える主力産地としての生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.5	5.0	5.0	5.5	122.2%
出荷量 (t)	203.0	220.0	220.0	250.0	123.2%
産出額 (千万円)	6.5	7.0	7.0	8.0	123.1%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・古くから仙南地域の特産野菜として知名度が高く、出荷量全国2位(平成30年実績)と全国有数の産地となっている本県における主要産地となっている(県全体の出荷量に占める占有率:86% 平成30年実績)。
- ・主に、蔵王町、角田市、柴田町、白石市で生産が行われている。出荷期間の長期化と安定供給を図るため、パイプハウス及びトンネル栽培が中心になっている。
- ・比較的病害虫の被害が少ない特性を活かし、農薬節減栽培が定着している。
- ・一時期ネコブセンチュウによる被害が増加し、収量の減少に苦慮したが、忌避作物の作付けや忌避成分の土壌散布混和、ほ場ローテーションの実行によりセンチュウによる被害は減少してきている。

○流通・販売面

- ・首都圏や仙台など大規模消費地向けの系統出荷が中心であるが、近年地元の農産物直売施設への出荷も拡大してきており、出荷先の多角化が進んでいる。
- ・葉菜類の不足する夏季に比較的低価格で安定供給できる野菜として需要は安定している。

○課題等

- ・環境に配慮した持続的な生産の実践により、生産性向上を図るとともに、消費者から信頼される安全・安心な商品の安定供給を目指す。
- ・他の葉菜類との輪作を図り、連作障害の回避と収益性の向上を進める。
- ・大規模生産に対応した作付計画に基づき、着実な生産を図るため、土壌診断に基づく適正な肥培管理の励行や計画的な生産に向けた人員配置確保等を整え、長期的な安定生産を目指す。

3 具体的振興策

○生産拡大に向けた産地強化対策及び栽培技術の習得と実践

○消費者から信頼される「安心・安全」で環境に配慮した生産の振興

4 主な担い手(部会)等

○ J Aみやぎ仙南つるむらさき部会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	生産拡大に向けた産地強化と技術向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移植栽培の励行等、小規模生産者の安定生産に向けた技術習得支援 ・ 遊休施設の有効活用推進 ・ 生産拡大に向けた作期拡大の推進 ・ 土づくりと輪作体系の導入による連作障害回避対策
	環境に配慮した産地の取り組み拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌分析に基づく土づくりと肥培管理の促進 ・ 耕種的防除の実践推進等、化学農薬低減技術の積極的な取り組み支援
流通・販売面	安定的な出荷に向けた産地づくりとブランドカ・販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周年出荷の実現に向けた産地としての生産出荷計画整備 ・ 予冷出荷による品質向上推進 ・ ブランドカの検証に基づく販売戦略の構築
	顧客ニーズへの対応促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者並びに実需者ニーズの把握と産地ニーズのマッチングによる販売促進 ・ 農産物直売施設への出荷拡大による販売力強化と消費喚起の促進
その他		

【ブロッコリー】

持続性の高いブロッコリー産地の育成

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	34	35.7	37.4	40.8	120.0%
出荷量 (t)	83.0	91.5	100.4	119.5	144.0%
産出額 (千万円)	3.8	4.2	4.6	5.5	144.7%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・仙南地域で広く栽培されているが、角田市、丸森町、蔵王町、川崎町での生産が多く県内第1位の産地である。
- ・取り組んでいる生産者は全ての世代にわたっており、他作物からの転換やほ場整備に伴う水田農業における高収益作物としての新規栽培も増えつつあり、活気のある品目として作付面積は拡大傾向にある。
- ・春播き栽培、夏播き栽培いずれの作型も管内全域で生産振興が進められている。
- ・ほ場の固定化により連作障害が目立ってきている。
- ・近年多発する大雨や長雨の影響を受け特に堤外地や水田転作等の排水不良ほ場では、湿害による収量の低下が懸念されるほか、「黒すす病」といった新たな病害の発生が問題になってきている。

○流通・販売面

- ・系統販売は、ほぼ全量が仙台市場へ出荷されている。
- ・予冷库の導入や商品の氷漬けによる出荷等、鮮度保持の取り組みが進んでいる。

○課題等

- ・ほ場条件改善による湿害回避および基本的な栽培管理の励行と病虫害防除の徹底等による収量向上を目指すとともに、連作障害に負けない持続性の高い産地を目指す。
- ・新たに取り組みを始める生産者への技術習得と平準化による産地力のレベルアップを推進する。
- ・大規模生産に対応する機械化と労働力確保の仕組みを確立し作付計画に基づいた長期的な安定生産を目指す。

3 具体的振興策

○ほ場条件の改善と基本技術の励行による収量向上

○高品質で安全・安心な商品の安定出荷によるブランドの確立

○機械化体系等の省力生産技術の導入による生産拡大

○ほ場整備地区の水田農業における高収益作物としての導入拡大

4 主な担い手(部会)等

○J Aみやぎ仙南ブロッコリー部会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	基本的技術の励行による収量の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・生産出荷計画に基づく適正品種の導入推進 ・ほ場における排水対策や高うね栽培の実践等、湿害回避技術の導入推進 ・適切な病虫害防除実施の指導
	連作障害の回避	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断に基づく適切な土づくり、肥培管理の実施誘導 ・根こぶ病を中心とした土壌病害の防除指導
	大規模栽培者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化の推進による省力化技術の導入 ・適切な生産出荷計画策定など高収益作物としての導入促進
流通・販売面	長期安定出荷体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷期間の拡大に向けたハウス及びトンネル栽培の導入推進
	ブロッコリー産地としてのブランド確立	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度や販売力の向上を図るため、産地PR活動の支援
その他		

【だいこん】

地域振興作物としての「だいこん」の安定生産と拡大

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	69.1	72.6	76.0	82.9	120.0%
出荷量 (t)	740.0	815.9	895.4	1,065.6	144.0%
産出額 (千万円)	7.4	8.2	9.0	10.7	144.6%

※四捨五入により端数処理を行っている。

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・主に蔵王町、川崎町で生産されており、比較的大規模に取り組まれている。
- ・蔵王町では、地域振興作物として生産振興を図っている。
- ・だいこんの加工品である「へそ大根」については、丸森町を中心に地域の伝統的な加工品となっている。
- ・高齢化等により経営面積が減少しているが、一部、異業種による参入の動きも見られる。

○流通・販売面

- ・蔵王町ではイベントが開催されるなど、消費者に対して一定の認知がある。
- ・直接販売が多く、販売先・形態については把握されていない。

○課題等

- ・高齢化、労働力不足が課題となっており、機械化推進と新たな担い手の育成が必要である。
- ・新規の取組も見られるため、生産技術の向上を図る必要がある。
- ・作付けは栽培条件が整備されたほ場に固定される傾向があり、作付け可能なほ場を拡大し輪作体系を定着する必要がある。

3 具体的振興策

○基本技術の励行による収量・品質の向上

○高品質・安定生産による持続可能な産地づくり

○イベント時期に合わせた生産体制の確立

○地域の観光と連携したダイコン祭り、消費者交流等のイベント販売の取組み

4 主な担い手(部会)等

- 蔵王町、川崎町等、管内市町の個人生産者
- J Aへの系統出荷者

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	産地拡大に向けた生産振興	<ul style="list-style-type: none"> ・法人組織への作付誘導 ・収穫機等の導入による省力化体系技術への誘導
	基本技術の励行による安定生産	<ul style="list-style-type: none"> ・基本栽培技術の徹底 ・輪作体系によるほ場作付け計画の確立
流通・販売面	消費者ニーズに対応した販売戦略の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・町と協力したイベント販売の支援 ・消費者に向けた産地P R活動支援
	実需に対応した販売支援	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者とのマッチング等による販路開拓支援
その他	農産加工品の生産	<ul style="list-style-type: none"> ・「へそ大根」を活用した新たな農産加工品開発等の支援

【にんじん】

地域にあった栽培体系の確立と産地育成

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.4	2.5	2.6	2.9	120.8%
出荷量 (t)	31.0	34.2	37.5	44.6	143.9%
産出額 (千万円)	0.3	0.3	0.4	0.4	133.3%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・主に角田市、蔵王町、丸森町を中心に生産されており、乾燥や湿害の影響を受けやすい特徴がある。
- ・生産者の中には、大規模生産を目指す経営体も現れ、機械化一貫を目指した省力化技術の導入も検討されている。個別の生産者でも洗浄機等の導入が一部で進んでいる。
- ・今後、加工用・業務用等のニーズに即した生産拡大が見込める。

○流通・販売面

- ・一部では系統出荷も行われているが、大半が直売所や直接取引によるものである。
- ・他産地も生産が縮小傾向にある中で、需要は高く価格は安定している。

○課題等

- ・近年の気候変動から播種期の高温乾燥による発芽不良や秋季の温暖化や多雨による品質低下が課題となっている。
- ・実需者ニーズに対応する中で、取引単価の調整や輸送コスト負担等、栽培面積拡大に向けた調整が重要になる。

3 具体的振興策

- 基本技術の励行による収量向上
- 高品質で安全・安心な生産物の長期安定出荷
- 収量性の向上による生産体制が継続可能な産地づくり
- 機械化体系等の省力生産技術の導入による生産拡大

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南産直委員会
- 管内個別生産者

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	産地拡大に向けた生産振興	<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農や農業生産法人等への作付誘導 ・基本的な技術の徹底と土壌診断結果に基づく適正な肥培管理指導の徹底 ・大規模生産に向けた機械化体系の推進
	基本技術の励行による安定生産・供給	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術の徹底と土壌診断結果に基づく適正な肥培管理指導の徹底 ・実需者ニーズにあった商品の安定生産技術の徹底指導 ・排水対策および灌水施設の整備などほ場条件の改善
流通・販売面	農商工連携・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者とのマッチングによる販路の開拓
	消費者ニーズに対応した生産技術の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・各種認定制度やGAPへの取り組み支援
その他		

【さといも】

ブランドカを活かした信頼性の高いさといもの生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	5.4	5.4	5.4	5.4	100.0%
出荷量 (t)	28.7	30.1	31.6	34.5	120.2%
産出額 (千万円)	0.8	0.8	0.9	1.0	125.0%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・主に蔵王町で生産が行われており、品種は在来の「蔵王いも」のほか、「土垂」等が栽培されている。
- ・栽培管理が比較的容易で湿害にも強いことから、水田転作作物として生産振興されてきた。
- ・重量野菜で収穫・調整作業が重労働で、生産者の高齢化により作付面積は減少傾向にある。
- ・種芋の選別・更新を徹底し、優良種苗の確保が図られている。

○流通・販売面

- ・「蔵王いも」は、地域の伝統野菜として知名度とブランドカが高い。このため仙台市場への系統出荷中心であるが、一部業務用・加工用への契約出荷も行われている。
- ・他産地も生産が縮小傾向にあるため、需要は高く、価格は安定している。

○課題等

- ・地域内余剰労力の活用等による収穫・調整作業への労働力の安定確保や機械化体系の導入により、栽培面積の維持による安定生産を図る。
- ・「蔵王いも」の知名度を活かした契約出荷の拡大により、産地の活性化を目指す。

3 具体的振興策

- 労働力の確保や機械化体系の改良による生産の安定化
- ブランドカを活かした販売戦略による産地活性化

4 主な担い手(部会)等

- JAみやぎ仙南さといも部会 ほか

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	労働力確保による生産の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者からの労働力の提供や地域内余剰労働力の活用推進 ・集落営農や農業生産法人等の組織的な生産への取り組み誘導
	担い手の明確化による重点的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引の拡大による経営の安定化と生産意欲の向上 ・雇用労働力の活用による作業の分業化・効率化による生産性向上
流通・販売面	ブランド力を活かした販売戦略による産地活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な販路の確保に向けた実需者とのマッチング促進 ・実需者ニーズに応じた契約取引の推進
その他		

【きくいも】

きくいもの認知度向上とブランド化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	0.86	0.94	1.0	1.1	127.9%
出荷量 (t)	1.6	1.80	2.0	2.3	143.8%
産出額 (千万円)	0.12	0.13	0.14	0.20	166.7%

※出典「白石市、丸森町調べ」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・比較的栽培しやすく生産性も高い作物であるが、収穫、出荷調製に手間がかかり、管理を怠ると雑草化する場合もある。
- ・白石市農産物直売所連絡協議会では関係機関や地元の農業高校と連携し、良質な種芋・収量を増やすための研修会などを開催してきている。
- ・きくいもとしての登録農薬がないなど確立された栽培技術がなく、栽培情報の提供が要望されている。

○流通・販売面

- ・白石市農産物直売所連絡協議会で積極的に販売に取り組み、販売実績も増加傾向にある。
- ・令和元年にオープンした白石市農産物等販売施設「おもしろいし市場」他、管内直売所で広く販売されている。

○課題等

- ・ブランド化を目指しているが、食べ方や利用方法に関する情報が少ない。
- ・健康意識の高い消費者等から注目されているが、PRに向けては薬事法等の法令遵守が必要である。

3 具体的振興策

○関係機関の連携、研修会等による技術情報の共有化

○直売所、市町のイベント等でのPRを推進し、管内飲食施設でのメニュー開発・利用促進

○販促PR資材(パンフ、ポップ、のぼり旗等)の作成配布による販売促進

4 主な担い手(部会)等

○白石市農産物直売所連絡協議会

○管内直売所組織

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	技術情報の共有化	・ 関係機関が連携し、研修会等により栽培に関する情報共有を行う。
流通・販売面	メニュー開発・利用促進	・ 各市町農業祭などの大規模イベントでPRコーナーを設けるなどして、認知度を高める。
	直売所の連携による販売推	・ のぼり旗やチラシを作成・配布し、直売所間の連携により認知度向上を図る。
その他		

【えごま】

鳥獣害の少ないえごま栽培で耕作放棄地対策

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.4	3.0	4.0	5.0	208.3%
出荷量 (t)	1.2	2.0	2.5	3.0	250.0%
産出額 (千円)	1.2	2.0	2.4	2.9	241.7%

※出典「丸森町調べ」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・丸森町では地域の高齢化が進むなかで、健康志向の消費者需要を念頭に 10 数年前からえごまの特産化に取組み、じゅうねん研究会が設立され、いきいき交流センター大内に搾油機が導入されている。
- ・中山間地における耕作放棄地対策や所得確保対策として、鳥獣被害が比較的少ないことから栽培拡大に力を入れている。
- ・近年えごま栽培に活用できる農業機械の開発が進み、それに適応した栽培方法の見直し等も徐々に進んでいることから、手作業中心であったえごま栽培からの脱却が展望されている。

○流通・販売面

- ・主に実から油を抽出し「えごま油」として直売所中心に販売されている。葉、搾りかすも食用や飼料として活用されている。
- ・えごま油は必須脂肪酸であるオメガ 3 系脂肪酸(α -リノレン酸)の含有割合が高いことから大手メーカーでも販売・宣伝されており、えごま油の注目度が高まっている。

○課題等

- ・収穫などが手作業のため、機械を導入しなければ面積の拡大が難しい状況である。
- ・栽培方法が十分に確立しておらず、安定した収量が確保できないこと等から、生産者数が増加しにくい。
- ・販路が限定されており、消費者の目に届く形でえごま関連商品が十分に提供できていない。

3 具体的振興策

○機械化による作業の効率化と収穫量の安定確保、品質の均一化を図る。

○えごまを活用した 6 次産業化を推進するため商品開発、販路の拡大を図る。

4 主な担い手(部会)等

○じゅうねん研究会(丸森町)

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	多彩な担い手への生産振興による産地の維持	・兼業農家や定年退職後の帰農者等への作付誘導
	収穫量の安定・品質確保	・機械化による作業の効率化と収穫量の安定確保、品質の均一化を図る。
流通・販売面	商品開発、販路拡大	・新規商品開発等えごまを活用した6次産業化を推進
その他		

【じねんじょ】

ブランドカを活かした地域の特産品「自然薯」(じねんじょ)の生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状(H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標(R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	0.70	0.80	0.81	0.82	117.1%
出荷量 (t)	0.50	0.60	0.70	0.80	160.0%
産出額 (千円)	0.20	0.20	0.30	0.30	150.0%

※出典「丸森町調べ」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・中山間地(丸森町大内地区)における特産品で、農家の高収益作物として所得確保対策につながっている。
- ・生産者の大部分は高齢者で、一戸当たりの栽培面積が小さい。

○流通・販売面

- ・直売所やイベントでの販売で贈答用や直売が中心で、固定客が多い。
- ・規格外品は「自然薯の粉」として販売もしている。

○課題等

- ・生産者の高齢化、後継者不在、中山間地のため栽培適地の確保が難しいことから、現在の栽培地域では生産拡大が難しい状況にある。
- ・「自然薯の粉」の新たな販路開拓。

3 具体的振興策

- 基本技術の励行と病虫害防除を徹底し、収量・品質の向上を図る。
- 労働力の確保による生産の安定化
- ブランドカを活かし、特産品としてのPRを強化し、販路の拡大を図る。

4 主な担い手(部会)等

- じねんじょ研究会(丸森町)

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	収量・品質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の励行と病虫害防除 ・栽培適地を確保する等連作障害の回避を図る。
	多彩な担い手への生産振興による産地の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・兼業農家や定年退職後の帰農者等への作付誘導
流通・販売面	ブランド力・販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化実証・販売戦略の展開による販路拡大
その他		

【さつまいも】

土地利用型作物及び高収益作物としての生産体制の整備

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	0.0	0.0	1.70	3.30	－
出荷量 (t)	0.0	0.0	17.50	78.80	－
産出額 (千万円)	0.0	0.0	0.20	0.83	－

※蔵王町、村田町、川崎町合計

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・平成 30 年より、川崎町で新規就農者 1 名が 0.5ha 程度の栽培を行っている。
- ・令和 4 年には、蔵王町で 0.3ha、川崎町の 1 法人が 1.0ha、丸森町の 1 生産組織が 0.1ha の試験栽培を行った。
- ・令和 5 年から、村田町で新規就農者 1 名が 0.2 h a 程度の栽培を行う予定である。

○流通・販売面

- ・川崎町の新規就農者は、独自に加工・販売を行っており、村田町の新規就農者は、道の駅村田での販売を予定している。
- ・川崎町の農業法人は、山元町の農業法人へ出荷する予定である。

○課題等

- ・水田における排水対策及び雑草対策の徹底
- ・健全苗の確保（基腐病の発生リスク対策）
- ・育苗技術の確立

3 具体的振興策

- 栽培技術の向上による収量安定
- 機械化体系の確立
- 販路の確立

4 主な担い手(部会)等

- 村田町 新規就農者 1 名
- 川崎町 1 法人及び新規就農者 1 名

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	生産技術の向上による安定生産	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化体系の導入による省力化 ・健全苗の確保による基腐病発生リスクの軽減 ・品種選定及び作型等による作期の分散
	経営規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の活用による機械導入の推進
流通・販売面	販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・実需者との取引拡大及び独自販路の確保に向けた支援
その他	生産者の確保育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新規作付者の掘り起こし ・生産体制の整備

【輪ぎく】

省力品種・技術の導入と担い手の確保による産地の活性化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	8.7	7.8	7.8	7.8	89.7%
出荷量 (t)	874.0	769.0	771.0	773.0	88.4%
産出額 (千万円)	5.2	3.8	3.8	3.8	73.1%

※出典「H30 花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・冬期の輪ぎく単価の低迷や燃油高騰の影響により、収益を確保するため加温栽培に取り組む生産者は一部である。
- ・輪ぎくについては、トルコギキョウへの転換等により施設栽培が減少し、盆及び彼岸出荷の露地栽培が主体の生産者が多い。
- ・近年の気候変動により、需要期に合わせた出荷が不安定になっている。

○流通・販売面

- ・仙台市場を中心に出荷されている。7～9月のモノ日(盆彼岸)中心の出荷になっている。
- ・市場法改正により、中央市場における販売形態が相対取引直送や市場買い取り転送へと変化し、モノ日には8割が予約相対取引となっている。

○課題等

- ・他作物との複合による小規模経営が多く、高齢化等により生産者数が減っている。
- ・露地ぎくは、夏秋期に出荷が集中し、出荷量、品質、価格等が不安定である。
- ・施設ぎくは、冬期の低温、日照不足等の影響で、西南暖地に比べ生産性が低いため、燃油高により加温栽培は赤字経営となっている。
- ・販売店、市場、産地の一貫した消費拡大の取り組みが無い。

3 具体的振興策

○安定的な輪ぎくの産地づくりの推進

○産地情報発信による販売体制の整備と多様な販売チャネルへの対応

○情報発信による消費拡大対策

4 主な担い手(部会)等

○J Aみやぎ仙南花卉部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・組織活動の強化・リーダー育成 ・アドバイザー制など生産者の技術等習得制度の整備
	新規就農者、女性及び高齢者などへの複合経営導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルの作成 ・新規就農者、女性及び高齢者などの担い手候補のリストアップ・栽培導入啓発
	高品質安定生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の変動にかかわらず開花期が安定する品種の選定や技術導入支援
	省力化、軽労化など作業環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・共同育苗・購入苗の利用推進 ・複合環境制御、選花機など機械整備の推進
流通・販売面	産地情報発信体制整備による販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・共販体制など産地情報発信体制の整備による予約相対取引の推進
	多様な販売チャネルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング調査に基づく品種導入の検討 ・多様な販売チャネルへの対応
	ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培法の平準化 ・品質、出荷量の安定化 ・鮮度保持技術の導入
	情報発信による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・産地フェア等イベントでの直接販売によるイメージアップ、ニーズ把握 ・パンフレット作成による産地紹介、販売促進活動の強化
その他		

【スプレーぎく】

品質向上と他品目との組み合わせによる経営安定化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	1.3	1.4	1.4	1.5	115.4%
出荷量 (t)	163.0	193.0	203.0	213.0	130.7%
産出額 (千万円)	0.9	1.0	1.0	1.1	122.2%

※出典「H30 花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・平成2年に川崎町に大型施設団地が導入された。その後の単価低迷や燃油高騰の影響を受けて、周年栽培への取り組みは行われていない。
- ・輪ぎくに比べて到花週数が短く省力的であり、無加温栽培で収益性が高いため、6月から11月までの作型での取り組みが多い。
- ・近年の気候変動により、需要期に合わせた出荷が不安定になっている。

○流通・販売面

- ・市場法改正により、中央市場における販売形態が相対取引直送販売や市場買い取り転送販売へと変化した結果、市場の中値幅が広がってきている。
- ・確実に出荷できる計画と出荷情報の提供で優位販売の実現を目指す。
- ・近年の品種改良により花形や花色が多様化し、用途が広がっており、需要は拡大傾向にある。

○課題等

- ・他品目との複合による小規模経営が多く、規模拡大が進まず、専作経営が少ない。
- ・施設ぎくは、冬期の低温、日照不足等の影響で、西南暖地に比べ生産性が低いため、燃油高により加温栽培は赤字経営となっている。
- ・販売店、市場、産地の一貫した消費拡大の取り組みが無い。

3 具体的振興策

○効率的かつ安定的な産地づくりの推進

○新たなニーズに対応した技術開発と普及

○産地情報発信による販売体制の整備と多様な販売チャネルへの対応

○情報発信による消費拡大対策

○人と環境に優しい産地の育成

4 主な担い手(部会)等

○ J Aみやぎ仙南花卉部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・組織活動の強化・リーダー育成 ・アドバイザー制など生産者の技術等習得制度の整備
	新規就農者、女性及び子高齢者などへの複合経営導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルの作成 ・新規就農者、女性及び高齢者などの担い手候補のリストアップ・栽培導入啓発
	省力化、軽労化など作業環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・共同育苗・購入苗の利用、複合環境制御、選花機など機械整備の推進
	短茎栽培など新技術導入による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実証ほの設置による技術の組み立て ・技術の普及啓発・市場開拓
流通・販売面	産地情報発信体制整備による販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷規制の見直し ・共販体制など産地情報発信体制の整備による予約相対取引の推進
	多様な販売チャネルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング調査に基づく品種導入の検討 ・多様な販売チャネルへの対応
	ブランド化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培法の平準化 ・品質、出荷量の安定化 ・鮮度保持技術の導入
	情報発信による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・産地フェア等イベントでの直接販売によるイメージアップ、ニーズ把握 ・パンフレット作成による産地紹介、販売促進活動の強化
	消費者等との顔の見える関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・販売者・市場・産地と連携した消費者に向けた花き文化の啓発 ・生産履歴記帳、情報公開の推進
その他		

【鉢ものの類】

品質向上と魅力ある品目・品種の導入による産地力の向上

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	4.4	4.4	4.4	4.4	100.0%
出荷量 (t)	289.0	296.0	300.0	302.0	104.5%
産出額 (千万円)	10.7	12.0	12.4	12.7	118.7%

※出典「H30 花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・鉢ものの類の生産は、昭和 40 年代から水田転作による複合品目として県内各地に広まり、近年は法人化など雇用労力を活用した企業的な経営が増え、後継者も多い。
- ・柴田地区では栽培技術の向上と経営安定のため研究会を組織し、契約販売等による共同出荷を実施しているが、個人ごとに土を調合したり、仕立て方法が統一されていないことなどから、品質にばらつきが生じている。
- ・元肥中心で省力化を図っており、肥料成分が多い傾向にあり、気候により肥料の溶出量が増えるため、時期により多肥から誘引される病気の発生等で品質が安定しない。
- ・令和元年東日本台風で、一部被害を受け令和 2 年春出荷が減少したが、次作以降の作付けは回復している。

○流通・販売面

- ・ポットカーネーションは、令和 2 年度まで母の日用に大手商社との契約販売を主体としてきたが、契約が終了したため、新たな販売ルートの確立または品目転換の検討が必要となっている。
- ・ポットマムは、大型ホームセンターとの契約販売を中心に、作期の拡大を図ることで生産量が増加している。また、契約先のオーダーに合わせ、品種の変更を行ったり、出荷時に 1 トレー内に多品種の組み合わせを行うなど需要に合わせた販売に努めている。
- ・契約販売中心のため販売単価は安定している。
- ・季節の行事に合わせた販売イベントの実施や直売所での販売会を行うなど、地域に密着した販売も行っている。

○課題等

- ・施設や機械などの設備投資にかかる費用や肥料・ポットなど必要資材の値上がりが続く、省力化・低コスト化技術の導入検討が必要である。
- ・部会内で技術の統一がされておらず、品質にばらつきがあるため、技術の平準化と品質の統一が求められる。
- ・販売単価の低迷が続いている。

- ・住宅環境の変化などにより、小鉢化が進んでおり、一鉢当たりの単価が下がっている。

3 具体的振興策

- 経営感覚に優れた多様な担い手の育成・確保
- 安定的な産地づくりの推進
- 省力化技術の導入及び品質の高位平準化の推進
- 新たなニーズに対応した技術開発と普及
- 産地情報発信による販売体制の整備と多様な販売チャネルへの対応
- 情報発信による消費拡大対策

4 主な担い手(部会)等

- 柴田鉢花研究会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	高品質安定生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季における高温対策技術の導入・普及 ・品質の高位平準化を目指した、肥培管理の見直しと定着 ・実需者ニーズに合った品目の導入や商品規格に応じた生産の対応
	経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者や新規就農者の確保等担い手の育成 ・経営計画に基づく経営管理等企業の経営への取組に対する支援
	省力化、軽労化など作業環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・底面吸水、移動ベンチ、ポットティングマシンなどの導入推進
	新品目導入、開花調節技術開発など生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実証ほの設置による技術の組み立て ・技術の普及啓発・市場開拓
流通・販売面	産地情報発信体制整備による販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・産地情報発信体制の整備による予約相対取引の推進
	多様な販売チャネルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引、予約相対取引等による安定した価格取引の推進 ・新規取引先の確保等契約取引の推進 ・新規需要の開拓等マーケティング調査の推進
	情報発信による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成による産地紹介、販売促進活動の強化 ・直売会等イベントでの直接販売によるイメージアップ、ニーズ把握
	消費者等との顔の見える関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・販売者・市場・産地と連携した消費者に向けた花き文化の啓発 ・ホームページ開設等による産地PR ・生産履歴記帳、情報公開の推進
その他		

【鉢もの類・花壇用苗もの類(うち花壇用苗もの類)】

ニーズに合う花壇用苗もの類生産と経営安定化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	5.8	5.9	6.0	6.1	105.2%
出荷量 (t)	2,685.0	2,730.0	2,760.0	2,790.0	103.9%
産出額 (千万円)	20.1	20.2	20.6	21.0	104.5%

※出典「H30 花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・花壇用苗もの類は、ガーデニングブーム、秋出しパンジーの普及・定着により生産量が増加してきた。
- ・主要な販売先が生花店からホームセンター等量販店に代わったことなどにより販売単価は伸び悩んでいるが、契約により安定した販売量を確保する経営戦略となっている。
- ・本県における花壇苗経営は、稲作や鉢物との複合経営が多かったが、契約取引の増加とともに苗物生産を専業とする経営体に生産が集約されてきている。

○流通・販売面

- ・花壇苗の流通は、ホームセンター等量販店との契約出荷の割合が年々高まり、市場出荷される割合は低くなっている。
- ・グランドカバープランツなど公共施設やビル等の緑化事業が増加傾向にある。
- ・地域の花いっぱい運動、花のあるまちづくり運動は、公共事業の縮小にともない減少している。

○課題等

- ・経営の規模拡大による所得確保
- ・雇用労働の活用による規模拡大と省力化、軽量化などの作業改善の推進
- ・需要にあった新商品の展開
- ・情報発信による消費拡大

3 具体的振興策

- 経営感覚に優れた多様な担い手の育成・確保
- 安定的な産地づくりの推進
- 新たなニーズに対応した新品目の導入や新商品の展開等販売戦略の強化
- 販売体制の整備と多様な販売チャネルへの対応

○消費者等への花のある生活提案等情報発信による消費拡大対策

4 主な担い手(部会)等

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	高品質安定生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季における高温対策技術の導入・普及 ・実需者ニーズに合った品目の導入や商品規格に応じた生産の対応
	経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者や新規就農者の確保等担い手の育成 ・経営計画に基づく経営管理等企業の経営への取組に対する支援
	省力化、軽労化など作業環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ミキサー、ローラーコンベア、ポッティングマシーンや省力システムなどの導入推進
	新品目の導入、新商品に合った栽培方法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・実需にあった新商品の導入と技術の確立 ・実需者ニーズを踏まえ商品スタイルの生産技術の確立
流通・販売面	産地情報発信体制整備による販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・産地情報発信体制の整備による予約相対取引の推進
	新たなニーズに対応した新品目の導入や新商品の展開等販売戦略の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング調査に基づく、新品目や商品スタイルの取組推進 ・多様な販売チャネルへの対応等販売戦略の強化支援
	情報発信による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ネット販売等販売促進活動の強化 ・販売者・市場・産地と連携した消費者に向けた花き文化の啓発
	消費者等との顔の見える関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・直売会等イベントでの直接販売によるイメージアップ、ニーズ把握 ・SNS、ホームページ等を活用した産地PR支援 ・生産履歴記帳、情報公開の推進
その他		

【小ぎく】

省力的な小ぎく生産による産地の活性化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	3.1	3.2	3.3	3.3	106.5%
出荷量 (t)	519.0	525.0	535.0	545.0	105.0%
産出額 (千万円)	2.1	1.9	2.0	2.2	104.8%

※出典「H30 花き産業振興総合調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・小ぎくを主品目として栽培している生産者のほか、輪ぎくや他の花き品目の生産者が直売や花束の添え花として小規模に作付けしている事例も多い。また、省力品目として他の品目からの転換で栽培されている事例も多い。
- ・大河原管内では、以前は柴田町を中心に大河原町、丸森町、村田町などで栽培されていたが、平成 16 年に丸森町が花き振興の一環として小ぎく苗を推進したことをきっかけに、丸森町の新規生産者が増加し、現在では丸森町が中心となって栽培している。
- ・丸森町の小ぎくは、栽培技術がまだ確立されておらず、収量は不安定である。また、1 戸あたりの栽培規模が小さく、生産者の平均年齢が高いこともあり、生産性が低い。令和元年東日本台風で甚大な被害を受けたが、翌年には作付面積は概ね回復した。
- ・近年の気候変動により、需要期に合わせた出荷が不安定になっている。

○流通・販売面

- ・ほとんどが J A を通しての市場出荷となっており、7～9 月のモノ日（盆・彼岸）中心に出荷されている。
- ・モノ日では予約相対取引が多く、安定した価格で取引されている。
- ・温暖化の影響等により年々開花期が早まる傾向にあり、需要期に出荷が合わず、単価がとれないことがある。
- ・病虫害被害等による出荷ロスが多くみられる。

○課題等

- ・稲作、他の花き品目との複合による小規模経営が多く、高齢化等により生産者数、作付け面積の大幅な増加は見込めない。
- ・栽培技術の見直し等による需要期出荷の徹底。
- ・的確な病虫害防除、適正施肥。

3 具体的振興策

- 親株管理技術の向上による優良苗の安定生産の実現
- 計画的に出荷を行うための開花調節技術の習得
- 高品質生産による収益性の向上

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南丸森地区花卉部会
- J Aみやぎ仙南柴田地区小菊生産部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	良質な苗生産体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・親株管理技術向上支援、苗生産技術向上 ・共同育苗による親株管理体制の確立
	需要期出荷のための生産技術確立	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会等による技術の普及啓発 ・気象条件の変動にかかわらず開花期が安定する品種の選定や技術の導入支援
	高品質生産による収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防除暦を活用した病虫害防除の徹底 ・土づくり、土壌診断に基づいた適正施肥の励行
流通・販売面	産地情報発信体制整備による販売力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・共販体制の強化 ・出荷計画など産地情報の発信体制の整備 ・市場における予約相対取引の推進
その他		

【トルコギキョウ】

地域にあった栽培体系の確立による産地の育成

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	2.6	2.5	2.6	2.7	103.8%
出荷量 (t)	563.0	630.0	662.0	694.0	123.3%
産出額 (千万円)	6.5	7.2	7.6	8.1	124.6%

※出典「H30 農協販売実績等」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・大河原管内では、白石市、角田市、柴田町を中心に生産されており、柴田町では平成 21 年以降施設ぎくからの転換が進み、現在では管内で最も栽培が盛んな地域となっている。
- ・栽培期間が長く、育苗には特に高度な技術を要する。平成 30 年頃から斑点病の発生が拡大し、品質低下などをもたらしており、防除回数の増加や、出荷調製作業に時間を要するため、早期の防除対策の確立が求められている。
- ・令和元年東日本台風で甚大な被害を受けたが、翌年の作付面積は概ね回復した。
- ・近年の気候変動により、需要期に合わせた出荷が不安定になっている。

○流通・販売面

- ・ほとんどが J A を通しての市場出荷となっている。
- ・出荷は 4 月～11 月で、4～5 月、10～11 月は特に高値で取引されるが、この時期に出荷するためには高度な管理技術を要する。
- ・八重咲きと一重咲きの品種があるが、八重咲き品種は特にブライダル用として人気が高く、平均単価も高い。

○課題等

- ・栽培技術の向上
- ・輪ぎくとの組み合わせ等による、地域に合った栽培体系の確立
- ・シーズンごとの品種の見直し、経済性の高い品種や有望品種の導入
- ・新たな市場開拓による販路拡大
- ・病害対策の早急な確立

3 具体的振興策

- 栽培技術の向上、定着
- 地域に合った栽培体系の確立
- 経済性の高い品種や実需者ニーズに対応した品種の導入
- 高品質生産による収益性の向上(病虫害防除、肥培管理技術の向上)
- 産地情報発信による販売体制の整備(出荷計画の提示等)

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南花卉部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	基本技術の習得、定着	・現地検討会、栽培技術講習会の実施 ・生産者間の情報共有、技術交流
	地域に合った栽培体系の確立	・展示ほの設置による高品質栽培技術の検討
	高品質生産による収益性向上	・病虫害防除技術の向上 ・土づくり、土壌診断に基づいた適正施肥の励行
流通・販売面	実需者ニーズに合った品種の導入	・マーケティング調査に基づく品種導入の検討
	販売体制整備	・共選共販の実現 ・出荷計画など産地情報の発信体制の整備 ・市場における予約相対取引の推進
その他		

【りんご】

気候変動に対応した栽培技術の向上と後継者の育成

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	53.0	40.0	40.0	40.0	75.5%
出荷量 (t)	600.0	600.0	600.0	600.0	100.0%
産出額 (千万円)	12.6	15.0	15.0	15.0	119.0%

※出典 「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・生産者の高齢化・後継者不足により生産量は減少傾向にある。
- ・極端な気象変動に伴い、気象災害、病虫害の発生、日焼け果、着色不良が心配されている。
- ・主力品種は「ふじ」で、一部で加工用として特色のある県育成品種「サワールージュ」が栽培されている。
- ・平成31年に設立された果樹産地協議会の構成員で、国庫事業により改植の事業が導入され品種の更新が進められている。
- ・蔵王町では蔵王はるか会などで黄色品種「はるか」のイベント開催によるブランド化を進めている。
- ・1ha未満の栽培が大部分で、なしやもも等を組み合わせた複合経営である。
- ・山間地を中心に、イノシシやサルによる被害が発生し、電気柵を設置して栽培が行われている。
- ・後継者が就農している経営体があり、亶理郡内の若手生産者と交流を行っている。

○流通・販売面

- ・個々の生産者による庭先販売、贈答販売、直売所出荷が中心となっている。
- ・洋菓子店等の実需者へ直接販売している生産者もいる。

○課題等

- ・極端な気象に応じた適期の病虫害防除や日焼け果等の対策が求められている。
- ・高樹齢化により、全体的に生産性が低下しているため、計画的な改植が必要である。
- ・消費者ニーズや温暖化に対応した優良品種への更新が必要となっている。

3 具体的振興策

- 気候変動に対応した、適期防除と優良品種への更新による生産の安定化
- 高齢化等に対応した省力化技術の推進
- 既存園地の生産力維持
- 新たな商品、加工品開発支援
- 後継者の育成

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南白石地区果樹部会
- 角田市果樹振興協議会りんご部会
- 蔵王はるか会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	適期防除による生産の安定化	・病虫害発生予察調査の情報周知 ・生育状況と気象経過に基づく適期防除の指導
	省力化技術の推進	・摘果剤の使用推進による摘果作業の省力化 ・省力樹形への改植
	既存園地の生産力維持	・せん定及び施肥方法などの栽培管理指導による樹勢の維持 ・計画的な改植の実施
	果実の着色不良対策	・温暖化に対応した着色系及び黄色系品種への切替促進
流通・販売面	新たな商品、加工品開発支援	・実需者とのマッチング支援
	管内産果実の知名度向上	・イベント開催PR支援
その他	後継者の育成	・技術交流会による技術習得 ・関係機関によるバックアップ体制の整備

【日本なし】

高品質安定生産によるブランドカの向上

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	89.2	86.4	80.0	80.0	89.7%
出荷量 (t)	1,400.0	1,500.0	1,600.0	1,600.0	114.3%
産出額 (千万円)	32.9	37.5	40.0	40.0	121.6%

※出典「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・角田市と蔵王町で栽培されており、品種は「幸水」、「豊水」、「あきづき」、「新高」が大部分を占める。
- ・なしを基幹にしたりんご、もも、いちじく等を組み合わせた複合経営が多い。
- ・生産者の高齢化が進み、廃園や放任園地が多くなっている。
- ・近年は、黒星病など果実生産に大きな被害を及ぼす病害の発生が多い。
- ・果樹産地協議会を設置し、国庫事業による改植やジョイント栽培に取り組む生産者もいる。
- ・有望な晩生品種を模索している。

○流通・販売面

- ・蔵王町では光センサー方式のJA共同選果場により、共選共販体制が確立され、仙台、東京、大阪の市場を中心に出荷されている。
- ・JAみやぎ仙南では蔵王町産なしの香港輸出へも取り組んでいる。
- ・JAみやぎ仙南角田梨部会では、みやぎ生協との契約販売が行われている。
- ・個々の生産者による庭先販売、直売、贈答販売も行われている。

○課題等

- ・極端な気象に応じた適期の病虫害対策が求められており、特に黒星病対策が重要となっている。
- ・高樹齢化により、生産性が低下している。
- ・廃園や放任園が病虫害の発生原因となっているため、その対策が必要となっている。

3 具体的振興策

○適期防除による生産の安定化

○既存園地の生産力維持

○省力技術や樹形の導入による労働生産性の向上

○輸出継続によるブランドカの向上

○後継者の育成

4 主な担い手(部会)等

○J Aみやぎ仙南蔵王地区なし部会

○J Aみやぎ仙南角田梨部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	適期防除による生産の安定化	・病虫害発生予察調査の情報や梨ナビゲーションを活用した適期防除の指導
	既存園地の生産力維持	・せん定及び施肥方法などの栽培管理指導による樹勢の維持 ・有望品種の更新
	省力技術や樹形の導入による労働生産性の向上	・防除用機械の活用による人工授粉の効率化 ・樹体ジョイント栽培等による早期成園化の推進
流通・販売面	輸出継続によるブランドカの向上	・輸出に向けた高品質果実の生産支援
	契約販売による安定出荷	・実需者の期待に応えられる産地の育成
その他	後継者の育成	・技術交流会による技術習得
	廃園、放任園対策	・地域での話し合い強化 ・新規栽培者の取組支援

【ぶどう】

栽培面積の拡大と栽培管理技術の向上

1 年次別推進目標

項目		現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
生 食 用	作付面積 (ha)	2.5	2.5	3.0	3.5	140.0%
	出荷量 (t)	11.2	13.0	15.0	35.0	312.5%
	産出額 (千万円)	0.8	0.9	1.3	3.5	437.5%
醸 造 用	作付面積 (ha)	1.5	5.5	5.5	7.0	466.7%
	出荷量 (t)	0	2.0	25.0	35.0	—
	産出額 (千万円)	0	0.06	0.7	1.0	—

※出典 「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・巨峰系品種やシャインマスカット等の生食用品種は、主に丸森町で栽培されているが、村田町でもシャインマスカットの取組みが始まっている。
- ・醸造用品種は、川崎町で栽培しているほか、村田町、七ヶ宿町、蔵王町で取組みが始まっている。

○流通・販売面

- ・生食用品種は、直売所や庭先で販売されており、地域内での流通が主体である。
- ・近年、日本産ワインの人気の高まる中、県内でもワイン醸造所が各地で開設され、原料となる醸造用ぶどうの需要は高まっている。
- ・醸造用ぶどう栽培は、県内ワイナリーと連携して販売する予定となっている。

○課題等

- ・生食用ぶどうの栽培は、1戸当たりの規模が小さく、量的需要への対応や品質のバラツキが課題となっている。
- ・醸造用ぶどう栽培者は、植栽後間もないことや果樹栽培初心者が多いことから、栽培技術の習得が課題である。

3 具体的振興策

- 基本的栽培管理技術の向上
- 技術研修会等の実施
- 実需者等のニーズを捉えた出荷支援
- 醸造用ぶどう生産者の連携強化

4 主な担い手(部会)等

- 丸森町市民農園管理組合不動直売会
- 醸造用ぶどう生産者

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	基本的栽培管理技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な巡回指導による適期作業の実施 ・ 簡易雨よけ栽培や省力化樹形の導入
	技術研修会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地検討会、せん定講習会等の開催による技術向上支援
流通・販売面	実需者等のニーズを捉えた出荷支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生食用果実の品質の高位平準化と生産量の確保 ・ 醸造用ぶどうの契約出荷の推進
その他	醸造用ぶどう生産者の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者間の情報共有・ネットワーク化支援

【小果樹類】

ブルーベリーの基本的な栽培管理技術の確立

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	9.6	10.0	10.0	10.0	104.2%
出荷量 (t)	5.6	6.0	6.0	6.0	107.1%
産出額 (千万円)	1.2	0.9	0.9	0.9	75.0%

※出典「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・角田市、蔵王町、大河原町等で栽培されている。
- ・蔵王町には農地所有適格法人が観光摘み取り農園に取り組んでいる。
- ・栽培技術が容易であることから、新規に取り組む生産者がいる。
- ・水田転作園での栽培もあるが、大部分は畑地への植栽である。
- ・有機物マルチが不十分な園地が多く、生産性が低い。
- ・1戸当たり栽培面積は大部分が10a未満である。

○流通・販売面

- ・直売所を中心に販売されている。
- ・観光摘み取り園がある。
- ・ジュースやジャム等の加工も行われている。

○課題等

- ・せん定や肥培管理など基本的な栽培技術が理解されていないため、生産が安定しない。
- ・収穫期間が短く、収穫労力を多く必要とするため、生産規模の拡大が難しい。

3 具体的振興策

○新規栽培者への支援

○既存産地の栽培環境の改善による生産性の向上

○摘み取り園の育成

○果実の販売・流通に向けたマッチング支援

4 主な担い手(部会)等

○有限会社蔵王ブルーベリー農園

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	新規栽培者の支援	・新規栽培者に対する開園支援
	既存産地の栽培環境の改善による生産性向上	・有機物マルチ技術の普及 ・せん定、摘果、施肥方法に関する技術普及
流通・販売面	摘み取り園の育成	・摘み取り園の運営支援
	果実の販売・流通に向けたマッチング支援	・食品製造業者等実需者とのマッチング支援
その他		

【も も】

改植の推進と新品種の導入による産地の活性化

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	19.1	19.1	19.1	19.5	102.1%
出荷量 (t)	180.0	180.0	190.0	195.0	108.3%
産出額 (千万円)	3.9	3.9	4.5	5.0	128.2%

※出典 「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・主に蔵王町、丸森町で栽培されている。
- ・全体に生産者の高齢化が進んでいるが、一部では後継者が就農している。
- ・経済樹齢を過ぎた樹が多くなっており、後継者がいる農家では改植を進めている。
- ・栽培規模は1 ha 未満が多く、果樹複合経営の一部門となっている。
- ・直売中心の生産者は、優良な新品種に対する関心が高い。

○流通・販売面

- ・庭先販売、直売所、贈答販売が中心となっている。

○課題等

- ・樹の経済栽培寿命が短く、高樹齢化により生産量の減少が多くなっており、改植や新品種の導入が必要である。

3 具体的振興策

- 改植の推進による園地の生産性向上
- 優良な新品種の導入による収益性の向上
- 後継者の育成

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南蔵王地区なし部会
- 角田市果樹振興協議会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	改植の推進による園地の生産性向上	・改植時の連作障害対策の徹底
	もも園土壌の改善	・土壌分析による土壌pHの適正化
流通・販売面	優良な新品種の導入による収益性の向上	・新品種の果実特性等の情報提供
その他	後継者の育成	・町外の若手生産者との技術交流、仲間づくり支援

【う め】

基本技術の徹底による高品質果実の生産

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	210.3	170.0	150.0	130.0	61.8%
出荷量 (t)	600.0	485.0	430.0	370.0	61.7%
産出額 (千万円)	8.2	8.0	7.0	6.1	74.4%

※出典 「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・蔵王町、角田市、大河原町等で栽培されている。
- ・主な栽培品種は、白加賀で全体の約8割弱を占め、市場からの要望も大きい。
- ・生産者の高齢化が進んでいる。
- ・複合経営の一部門となっている場合が多い。

○流通・販売面

- ・JA生産部会による系統出荷のほか、個々の農家は、市場や直売所へ出荷している。
- ・角田市では地域内加工による梅干し生産が行われている。
- ・角田市や大河原町では消費者向けの消費拡大イベントを道の駅等で実施している。
- ・年により価格の変動が大きい。
- ・JAみやぎ仙南蔵王地区梅部会は、平成31年4月に設立された「みやぎ仙南果樹産地協議会」の構成員で、令和元年9月に「みやぎ仙南果樹産地構造改革計画」を策定した。

○課題等

- ・高齢化により栽培管理が不十分な園地もあり、果実品質が低下している。
- ・樹の高樹齢化が進み、生産量が低い。

3 具体的振興策

- 適切な栽培管理の実施による商品化率の向上
- 消費者ニーズに合った品種の更新
- 新たな加工品の開発

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南蔵王地区梅部会
- 角田市果樹振興協議会(梅部会)
- 金ヶ瀬梅生産組合

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	せん定方法の改善、習得	・ 結果習性を理解したせん定方法の習得
	規格外品の減少による商品化率の向上	・ 病虫害防除技術の向上
流通・販売面	消費者ニーズに合った品種の導入	・ 市場からの要望に応じた品種への更新
その他	新たな加工品の開発	・ 管内酒造メーカー等と連携した加工品の開発

【か き】

気候変動に対応した栽培技術の向上と後継者の育成

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	225.0	180.0	160.0	140.0	62.2%
出荷量 (t)	206.0	250.0	250.0	250.0	121.4%
産出額 (千万円)	8.9	10.0	10.0	10.0	112.4%

※出典「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・白石市、丸森町を中心に、角田市や蔵王町等でも栽培されている。
- ・品種は「蜂屋柿」という甲州百目系の種類で、主に干し柿（ころ柿）に加工されて出荷販売されているほか、脱渋した果実も樽柿として出荷されている。
- ・生産者の高齢化が進んでいる。
- ・中山間地の斜面に植栽されている場合が多く、病虫害防除や除草作業が徹底されない園地が見られる。
- ・高樹高化した樹も多く、栽培管理の妨げになっている。
- ・生産の主体は個々の農家であり、収穫や加工には臨時雇用をする場合も多い。

○流通・販売面

- ・JA生産部会（白石地区、丸森地区）及び宮城県ころ柿出荷協同組合による市場出荷が行われている。
- ・温暖化等の影響により果実の乾燥調製が難しくなっているため、年によっては需要期である年末年始の出荷に影響を受けている。
- ・丸森ころ柿くらぶでは、3段階の品質基準を設定し、ブランド化を図る取組みを行っている。

○課題等

- ・炭そ病や落葉病等の病害が多く見られ、その防除対策が課題となっている。
- ・薬剤防除に落葉処理等の耕種的防除を実践する農家もあり、病害が軽減する事例も見られる。
- ・作業性を改善するための低樹高化へ向けたせん定技術の普及が遅れている。

3 具体的振興策

- 病虫害防除技術の普及による安定生産
- 低樹高栽培技術の普及による栽培管理の効率化と省力化
- 干し柿のブランド化支援
- 安全安心な干し柿生産の取組み

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南白石地区干し柿部会
- J Aみやぎ仙南丸森地区加工柿部会
- 宮城県ころ柿出荷協同組合
- 丸森ころ柿くらぶ

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	病虫害防除技術の普及による安定生産	・耕種的防除＋薬剤防除技術の徹底
	低樹高栽培技術の普及による栽培管理の効率化と省力化	・低樹高化を目指したせん定方法の普及
流通・販売面	干し柿のブランド化支援	・干し柿加工体験交流会等による交流人口の拡大 ・高品質果実の生産支援
その他	安全安心な干し柿生産の取組み	・干し柿製造時の衛生管理の徹底と出荷前自主検査の推進

【いちじく】

栽培管理技術の徹底による反当たり収量の向上

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	43.4	43.4	44.0	44.0	101.4%
出荷量 (t)	30.0	32.0	35.0	40.0	133.3%
産出額 (千万円)	1.6	1.7	1.8	2.0	125.0%

※出典 「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・角田市、蔵王町、村田町、丸森町での栽培が主体であるが、令和元年東日本台風で被災し、丸森町から川崎町で栽培を始めた方もいる。
- ・品種は、ほとんどが在来種かブルンスウィックである。
- ・生産者の高齢化が進み、廃園となる園地も見られる一方で、他の樹種に比べ比較的軽労のため新植も多い。
- ・栽培規模は、1 ha 未満が多く複合経営の一部門として栽培されている。
- ・カミキリムシ類の被害の他、近年、イチジク株枯病の発生が見られるほ場があり、対策が必要となっている。
- ・平成 26 年に丸森町農業創造センターが約 700 本の苗木補助を行い栽培を推進した。また、令和 3 年 3 月にも生食用苗木の補助を行い、栽培支援を行う予定である。

○流通・販売面

- ・J A 生産部会（蔵王地区、丸森地区）による市場出荷が主体であるが、その他、直売所等での販売が多い。
- ・甘露煮用の出荷がほとんどである。
- ・果樹品目の中でも価格は堅調に推移している。

○課題等

- ・新規栽培者が増えているため、基本的な栽培管理技術の習得が必要である。
- ・カミキリムシ類やイチジク株枯病による被害対策が必要となっている。
- ・甘露煮用がほとんどで購買層が限定されている。

3 具体的振興策

- 基本的栽培管理技術の向上
- カミキリムシ類防除やイチジク株枯病対策による安定生産
- 熟期促進技術の普及
- 生食用品種の導入による消費拡大

4 主な担い手(部会)等

- J Aみやぎ仙南蔵王地区いちじく部会
- J Aみやぎ仙南丸森地区果樹振興部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	基本的栽培管理技術の向上	・適正な芽かき方法、せん定方法等の普及 ・寒害、凍霜害対策の実施
	カミキリムシ類防除の徹底による安定生産	・園地の見回り等による早期発見と防除
	イチジク株枯病対策	・土壌の汚染状況の早期発見と抵抗性台木の活用
流通・販売面	熟期促進技術による有利販売	・熟期促進技術を習得し、早期・計画出荷を図る
	生食用品種の導入による消費の拡大	・甘露煮用出荷のほか、生食用での果実消費を推進
	実需者等へのPR	・洋菓子店等実需者とのマッチング支援
その他		

【西洋なし】

基本的な栽培管理技術・高品質果実の生産支援

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	3.3	3.3	3.3	3.3	100.0%
出荷量 (t)	46.0	50.0	50.0	50.0	108.7%
産出額 (千万円)	1.1	1.3	1.3	1.3	118.2%

※出典「H30 特産果樹生産動態等調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・宮城県の栽培面積は、全国 9 位（平成 28 年産）で、うち 4 割以上は仙南で生産が行われている。
- ・蔵王町、白石市、角田市等で栽培されている。
- ・仕立て方法は、棚仕立てと立木仕立ての 2 種類である。
- ・ラ・フランスを主体として、ゼネラル・レクラーク、マルゲリット・マリラ等の多様な品種が生産されている。
- ・予冷と追熟の技術が果実品質に大きく影響する。

○流通・販売面

- ・庭先販売や、宅配による直接販売、直売所への販売委託が行われている。
- ・ホームページや SNS 等により積極的な情報発信を行い顧客を確保している事例がある。

○課題等

- ・収穫後に予冷と貯蔵を行うための冷蔵施設が必須で、設備の導入と維持に必要なコストが高い。
- ・貯蔵中に果実腐敗性病害の発生が多く、販売可能な果実の歩留まりが低い。

3 具体的振興策

- 基本的栽培管理技術の向上
- 情報発信による消費拡大

4 主な担い手(部会)等

- 蔵王特産果樹部会

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	基本的栽培管理技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌分析を基本とした適切な施肥管理の実施 ・ 輪紋病、炭そ病等の果実腐敗性病害に対する効果の高い防除の実施
流通・販売面	情報発信による消費拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、ネット販売等販売促進支援
その他		

【しいたけ】

消費者への安全・安心のPRと生産及び販売量の拡大

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
栽培施設 (ha)	—	—	—	—	—
生産量(原木) (t)	5.4	9.4	9.4	9.4	174.1%
生産量(菌床) (t)	24.3	31.0	31.0	31.0	127.6%
生産量(乾) (t)	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0%
産出額(原木) (千万円)	0.5	0.9	0.9	0.9	180.0%
産出額(菌床) (千万円)	2.2	3.6	3.6	3.6	163.6%
産出額(乾) (千万円)	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0%

※出典「H30 特用林産物需給動態調査」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・生しいたけの生産量は29.7tでそのうち原木栽培が5.4t、菌床栽培が24.3tとなっている。
- ・平成23年に発生した福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響で、露地栽培の原木しいたけ生産者は著しく減少した。事故から10年を経過しようとしているが、再開した生産者の中には後継者の目途がつかない者も多い。
- ・菌床栽培による生しいたけについては、柴田町の福祉施設がH31年から新規に生産を開始。村田町の1企業がR2年2月に生産から撤退。丸森町の個人生産者も安定して生産を行っている。一方で、新型コロナウィルス拡大の終息が見えないことから生産拡大には慎重。

○流通・販売面

- ・農協出荷や地元の産地直売所へ直接卸しが中心。
- ・一部首都圏のレストラン向け直売も行われている。

○課題等

- ・生産量増強に先立つ新規販売先の確保。
- ・品質向上に伴って新販売チャネルの開拓。
- ・消費者へ仙南の生産物に対する安全・安心のPRが必要。

3 具体的振興策

○福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質被害への対応

- ・栽培指導
- ・原木栽培については、他県産原木、資材の供給支援

○安定した経営体制づくりの支援
・栽培指導、栽培施設整備の支援

○特用林産物の消費拡大の取組
・安全・安心のPR

4 主な担い手(部会)等

○JA仙南しいたけ部会のほか、異業種からの新規参入者

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	担い手の育成	・生産再開を目差す方への支援 ・新規参入者への継続的な支援
	生産機械・施設の整備	・各種助成制度、農業・林業改善資金の活用
	安全・安心な生産物の確保	・安全な生産物確保のための栽培指導
流通・販売面	消費拡大活動	・イベント等での安全・安心のPR活動
	商品開発	・加工品等の開発、連携
	有利販売対策	・安定した供給体制の整備、販路の確保
その他		

【たけのこ】

ブランド力を活かした信頼性の高いたけのこの生産振興

1 年次別推進目標

項目	現状 (H30) (A)	R3	R5 (中間評価)	目標 (R7) (B)	伸び率 (B/A)
作付面積 (ha)	67.0	80.0	85.0	87.0	129.9%
出荷量 (t)	37.0	44.0	48.0	52.0	140.5%
産出額 (千万円)	1.9	1.7	1.8	2.0	105.3%

※出典「丸森町調べ」

2 現状と課題

○生産・経営面

- ・丸森町のたけのこは中山間地における特産品として生産者が品質向上に努め、長年農家の収入確保につながっている特産林産物である。
- ・福島第一原子力発電所事故による放射性物質の影響で出荷が制限されていたが、平成 26 年から徐々に出荷制限解除地域を増やし、全町出荷制限解除に向けて活動を継続している。

○流通・販売面

- ・主に直売所で生鮮物や水煮などの加工品を販売している。
- ・解除地域で生産されたたけのこについては放射能検査を行い、安全が確認されたものにラベルを貼付し販売。

○課題等

- ・高齢化・担い手不足により竹林の整備が追いついていない。また、イノシシによるたけのこの食害が増加し問題となっている。
- ・水煮、メンマなどの加工品については直売所を中心に販売しているが、新たな販路開拓が必要である。
- ・現在も丸森町の一部で出荷制限が続いており、引き続き放射能検査による安全性の確認が必要である。

3 具体的振興策

- 多彩な担い手の確保による竹林の保全。
- 生産量の確保、品質の維持によるブランド価値の向上。
- 放射能検査体制を維持し、引き続き安全性の確認と情報発信に努める。

4 主な担い手(部会)等

- たけのこ生産組合（丸森町）

5 具体的取組内容

項目		取組内容
生産・技術面	多彩な担い手への生産振興による産地の維持	・兼業農家や定年退職後の帰農者等に向け、たけのこ生産・竹林維持への誘導を図る。
流通・販売面	ブランドカ・販売力の強化	・ブランドカを活かした販売戦略の展開
	安全・安心な生産物確保	・放射能検査体制の維持による安全・安心な生産物の確保。
その他		